

令和5年第4回
教育委員会定例会教育長報告

令和5年4月21日（金）

- | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|
| 1 | 令和4年度区域外就学の状況について | 資料1 |
| 2 | 令和4年度学校選択制の結果（令和5年度入学）について | 資料2 |
| 3 | 令和5年度児童・生徒数及び学級数の状況について | 資料3 |
| 4 | 令和5年度小・中学校等の教職員数及び令和5年度教職員の異動状況について | 資料4 |
| 5 | 武蔵村山市立学校令和5年度行事予定等一覧について | 資料5
(別冊) |
| 6 | 令和4年度武蔵村山市立学校学校評価結果について | 資料6 |
| 7 | 令和5年度武蔵村山市立学校研究活動等一覧について | 資料7 |
| 8 | 村山っ子相撲大会の廃止について | |
| 9 | その他 | |

令和 4 年度 区域外就学の状況について

令和 5 年 3 月 3 1 日現在

○区域外就学（学校教育法施行令第 9 条）事務処理状況

(単位：人)

区 分 項 目		1 学 期 4/1～8/31			2 学 期 9/1～12/31			3 学 期 1/1～3/31			合 計		
		小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
他市区町村から 「本 市」		5	1	6	10	2	12	6	2	8	21	5	26
本市から 「他市区町村」		9	3	12	4	8	12	15	11	26	28	22	50
計		14	4	18	14	10	24	21	13	34	49	27	76
理由 他市区町村から 「本市」	転入先付け	1	0	1	4	0	4	1	0	1	6	0	6
	市外転出	4	1	5	6	2	8	3	2	5	13	5	18
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	2
理由 本市から 「他市区町村」	学期途中	3	2	5	2	5	7	13	7	20	18	14	32
	両親共働き	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	2	3
	転出先付け	3	0	3	0	0	0	1	0	1	4	0	4
	そ の 他	3	1	4	2	3	5	0	2	2	5	6	11

◎ 学期別の集計は区域外就学承諾日で計上

ただし、3 学期分については、3 月中に申請があった者を含む

◎ 「本市」 …住所が他市区町村にあって本市の公立学校へ通学している児童及び生徒

「他市区町村」 …住所が本市にあって他市区町村の公立学校へ通学している児童及び生徒

◎ その他の主なもの…教育的配慮、家庭の事情等

令和 4 年度 学校選択制の結果(令和 5 年度入学) について

令和 5 年 3 月 3 1 日現在

○転入・転出状況

(単位：人)

選択校 指定校	第一中学校	村山学園 第二中学校	第三中学校	大南学園 第四中学校	第五中学校	転出計
第一中学校		0	13	8	2	23
村山学園 第二中学校	0		4	3	0	7
第三中学校	4	0		2	0	6
大南学園 第四中学校	0	0	9		0	9
第五中学校	32	0	0	0		32
転入計 (受入人数)	36	0	26	13	2	77

○主な理由

(単位：人)

理由 指定校	友人関係	クラブ活動	通学距離	伝統や校風	その他	計
第一中学校	11	0	10	0	2	23
村山学園 第二中学校	5	1	0	0	1	7
第三中学校	1	2	0	1	2	6
大南学園 第四中学校	7	1	0	0	1	9
第五中学校	7	9	0	7	9	32
計	31	13	10	8	15	77

その他の主な理由

学校パンフレット

進学実績

兄弟関係

通学路の安全

令和5年度児童・生徒数及び学級数の状況について

令和5年4月7日現在

学級編制基準 40人(小1～小4:35人、中1:35人)

1 小学校

区分	学 級 数										在 籍 者 数										備 考 (特別支援学級種別等)	
	通 常 の 学 級								特別 支援 学級等	合計	通 常 の 学 級								特別支 援学級 (固定)	合計		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計						
第一小学校	2	2	2	2	2	2	12	8	20	2	2	4	7	6	7	28	55	367	知的障害(固定) 4学級			
										1	3	5	5	5	8	27			自閉症・情緒障害(固定) 4学級			
										52	43	50	61	54	52	312						
第二小学校	2	2	2	2	2	2	12		12	58	62	62	66	53	68	369		369				
第三小学校	2	2	3	2	2	2	13		13	57	56	73	55	70	70	381		381				
村山学園 第四小学校	2	2	2	2	2	2	12	2	14	64	59	55	55	58	56	347		347	日本語(通級) 2学級			
大南学園 第七小学校	3	4	4	4	3	3	21		21	101	116	106	109	88	100	620		620	特別支援教室拠点校			
第八小学校	4	4	4	4	3	3	22		22	112	114	107	110	117	117	677		677	特別支援教室拠点校			
第九小学校	2	2	2	2	1	2	11	4	15	49	48	37	48	34	46	262		262	難聴(通級) 1学級 言語障害(通級) 3学級 特別支援教室拠点校			
第十小学校	2	2	2	3	2	3	14		14	57	62	66	78	79	95	437		437				
雷塚小学校	2	1	1	2	1	2	9	6	15	1	4	6	7	7	4	29	44	280	知的障害(固定) 4学級			
										0	1	6	2	6	0	15			自閉症・情緒障害(固定) 2学級			
										42	33	30	37	40	54	236						
小学校計	21	21	22	23	18	21	126	20	146	3	6	10	14	13	11	57	99	3,740	知的障害(固定)			
										1	4	11	7	11	8	42			自閉症・情緒障害(固定)			
										592	593	586	619	593	658	3,641						

在籍者数の3段書き上2段は特別支援学級(固定級)の児童数であり外数

2 中学校

区分	学 級 数						在 籍 者 数						備 考 (特別支援学級種別等)	
	通 常 の 学 級				特別 支援 学級等	合計	通 常 の 学 級				特別支援学級 (固定)	合計		
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計				
第一中学校	6	5	5	16	3	19	4	11	5	20	20	583	知的障害(固定) 3学級	
							192	181	190	563				
村山学園 第二中学校	2	2	2	6	7	13	8	7	18	33	49	192	知的障害(固定) 5学級 自閉症・情緒障害(固定) 2学級	
							7	5	4	16				
							41	59	43	143				
第三中学校	3	4	3	10		10	103	125	108	336		336	特別支援教室拠点校	
大南学園 第四中学校	3	3	3	9		9	92	104	120	316		316		
第五中学校	5	5	6	16		16	170	192	212	574		574	特別支援教室拠点校	
中学校計	19	19	19	57	10	67	12	18	23	53	69	2,001	知的障害(固定) 自閉症・情緒障害(固定)	
							7	5	4	16				
							598	661	673	1,932				

在籍者数の3段書き上2段は特別支援学級(固定級)の生徒数であり外数

3 日本語学級通級児童数(村山学園第四小学校)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
児童数	5	5	6	4	3	2	25

4 難聴通級指導学級通級児童数(第九小学校)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
児童数	0	2	1	1	1	0	5

5 言語障害通級指導学級通級児童数(第九小学校)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
児童数	0	11	8	14	10	7	50

6 特別支援教室利用児童数(拠点校:◎)

設置校	拠点校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
第一小学校	九小	3	0	1	1	3	3	11
第二小学校	八小	0	2	3	3	2	3	13
第三小学校	九小	4	1	5	0	10	2	22
村山学園第四小学校	七小	1	2	4	7	13	8	35
大南学園第七小学校	◎	2	6	9	7	5	5	34
第八小学校	◎	0	3	4	3	3	13	26
第九小学校	◎	1	2	2	6	5	9	25
第十小学校	八小	4	1	1	8	3	2	19
雷塚小学校	七小	1	0	2	2	1	4	10
利用者数計		16	17	31	37	45	49	195

7 特別支援教室利用生徒数(拠点校:◎)

設置校	拠点校	1年	2年	3年	合 計
第一中学校	五中	7	6	7	20
村山学園第二中学校	三中	2	1	1	4
第三中学校	◎	1	1	4	6
大南学園第四中学校	三中	1	4	4	9
第五中学校	◎	3	3	6	12
利用者数計		14	15	22	51

表3～表7は表1、2の児童・生徒数の内数

令和5年度小・中学校等の教職員数

令和5年4月1日現在

単位:人

小学校

学校名	学級数	校長	副校長	主幹教諭	指導教諭	主任教諭	教諭	主幹教諭(養護)	主任養護教諭	養護教諭	主任栄養教諭	栄養教諭	事務職員	計	再任用(短)	非常勤教員
第一小学校	12 (8)	1	1	2		6	17		1					28		
第二小学校	12	1	1	1	1	4	9			1				18		
第三小学校	13	1	1	3		5	8			1				19		
村山学園小学部	12 (2)		2	2		2	15			1				22		
大南学園 第七小学校	21 (1)	1	1	1		7	24			1		1		36		1
第八小学校	22 (1)	1	1	2	1	5	24			1				35		
第九小学校	11 (5)	1	1	2		8	14			1				27		
第十小学校	14	1	1	2		3	12			1			4	24		
雷塚小学校	9 (6)	1	1	1		4	15			1				23		1
小計	126 (23)	8	10	16	2	44	138	0	1	8	0	1	4	232	0	2

中学校

学校名	学級数	校長	副校長	主幹教諭	指導教諭	主任教諭	教諭	主幹教諭(養護)	主任養護教諭	養護教諭	主任栄養教諭	栄養教諭	事務職員	計	再任用(短)	非常勤教員
第一中学校	16 (3)	1	1	1		7	20		1					31	1	
村山学園中学部	6 (7)	1	1	1		6	16			1			4	30		1
第三中学校	10 (1)	1	1	2		7	11		1					23		2
大南学園 第四中学校	9	1	1	2		8	7		1					20		1
第五中学校	16 (1)	1	1	3		11	13		1					30		1
小計	57 (12)	5	5	9	0	39	67	0	4	1	0	0	4	134	1	5

	学級数	校長	副校長	主幹教諭	指導教諭	主任教諭	教諭	主幹教諭(養護)	主任養護教諭	養護教諭	主任栄養教諭	栄養教諭	事務職員	計	再任用(短)	非常勤教員
小・中学校計	183 (35)	13	15	25	2	83	205	0	5	9	0	1	8	366	1	7

		主幹教諭	栄養士
学校給食課	学校給食センター		1
指導主事		2	

※()内は特別支援学級、特別支援教室及び日本語学級
※期限付任用教員を含む

令和5年度教職員の異動状況

令和5年4月1日現在
単位:人

学 校 名		校 長		副校長		教諭(主幹教諭・主任教諭含む)		養護(主幹・主任養護教諭含む)		栄養教諭		事務職員		教諭・栄養・養護・事務職員計	
		転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
小 学 校	第一小学校					2 (1)	2 (1)							2 (1)	2 (1)
	第二小学校			転任	転任	3	3 (1)							3 (0)	3 (1)
	第三小学校	昇任	退職			3	3							3 (0)	3 (0)
	村山学園 小学部			転任	転任	4 (1)	3 (1)							4 (1)	3 (1)
	大南学園 第七小学校	昇任	再任 転任			5 (1)	6 (1)			1 (1)	1			6 (2)	7 (1)
	第八小学校					9 (1)	7 (2)	1 (1)	1					10 (2)	8 (2)
	第九小学校			転任	転任	2 (1)	2 (1)							2 (1)	2 (1)
	第十小学校					4	6	1 (1)	1			1 (1)	1	6 (2)	8 (0)
	雷塚小学校	昇任	転任			9 (1)	9 (2)							9 (1)	9 (2)
	小 計	3	3	3	3	41 (6)	41 (9)	2 (2)	2 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	45 (10)	45 (9)
中 学 校	第一中学校					3 (1)	3							3 (1)	3 (0)
	村山学園 中学部	再任	退職	転任	特命	6 (2)	6 (1)					2 (1)	2	8 (3)	8 (1)
	第三中学校					2 (1)	2							2 (1)	2 (0)
	大南学園 第四中学校					3 (1)	4							3 (1)	4 (0)
	第五中学校					9 (3)	11 (2)							9 (3)	11 (2)
	小 計	1	1	1	1	23 (8)	26 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (0)	25 (9)	28 (3)
合 計		4	4	4	4	64 (14)	67 (12)	2 (2)	2 (0)	0 (1)	0 (0)	3 (2)	3 (0)	70 (19)	73 (12)

※転入の()内は新規採用教員の内数

栄 養 士	転入	転出
学校給食センター	0	0

指導主事	転入	転出
	1	1

※転出の()内は退職者の内数

※期限付任用教員を含む

令和 4 年度

武蔵村山市立学校
学校評価結果

令和 5 年 4 月 2 1 日

武蔵村山市教育委員会

目 次

【提出方法】	様式 4	1
第一小学校	-----	2
第二小学校	-----	3
第三小学校	-----	4
第八小学校	-----	5
第九小学校	-----	6
第十小学校	-----	7
雷塚小学校	-----	8
小中一貫校村山学園	-----	9
小中一貫校大南学園第七小学校	-----	10
小中一貫校大南学園第四中学校	-----	11
第一中学校	-----	12
第三中学校	-----	13
第五中学校	-----	14

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第一小学校

経営理念	厳しくも温かい教育を通して、真の自立を目指し生きることにはたむきになれる素地を養い、【誰一人取り残さない学校】をみんなで作る。 (1) 児童の自ら学びに向かう力を育てる学校。(自立) (2) 児童の健やかな成長のために、共感し、協働する学校(共生) (3) 児童の思いや願いが実現できる学校(創造)
------	--

【学校運営協議会・会長】	高 橋 勉
学校運営協議会(学校評価分)	第1回 6月 4日(土) 第2回 12月 2日(金) 第3回 2月16日(水)

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価				
				目標値		最終評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)		
				7月 達成値	12月 達成値							
確かな 学力の 向上	誰一人取り残さないで、全員を学びに立ち向かわせる。		・自分から進んで授業に取り組んでいる児童の割合 ・自分の子は、自分から進んで授業に取り組んでいると感じている保護者の割合	95	85	A	児童の評価は、7月より12月の方が1%、保護者の評価は6%上がっている。「話し合い活動」を中心に校内研究を進めてきたが、学級会で自分の意見を伝える練習を重ねてきた結果、児童が主体的に参加している意識が高まったことと考えられる。	来年度も引き続き学級活動の校内研究を深めていく。「誰一人取り残さない学校」を意識し、「主体的、対話的で深い学び」を意識した授業改善を心がけ、児童が楽しいと思える授業づくりを今後も続けていく。	「誰一人取り残さない学校」の経営方針は一小児童が元気で登校できる大事なポイントである。引き続き応援したい。	4.0		
	学習内容の確実な定着と充実を全児童に対して図る。	ねらいを明確にし、分かりやすい授業をする。	・授業が分かるという児童の割合 ・教員が分かる授業をしていると感じている保護者の割合	95			94	A	授業が分かるという児童の割合が、94%以上でほぼ目標に達し、保護者の評価が昨年度の60%台から80%台に上がっている。授業内容を工夫し、休み時間や放課後学習教室などでも学習支援を行っている成果と捉えられる。	児童がつまづきやすいポイントを把握し、教科書通りよりも児童の実態に合わせた授業展開をするなど、分かる授業を工夫していく。児童の思考に合わせて図や絵や、ICTを有効活動し、視覚的な支援をするなど工夫が必要である。	授業がよくわかる、子供、保護者ともに高く評価できる点と考える。ただ下位の回答をしている子供へのケアをよろしくお願いします。	4.0
		始業前の朝学習時間や家庭学習等の時間を活用して、読み・書き・計算の反復練習に取り組む。	・宿題を忘れず、漢字習得、計算力の平均点が80点以上の児童の割合 ・自分の子が、宿題を忘れず、漢字習得、計算力の平均点が80点以上と感じている保護者の割合	95	78	B	目標値は90%なので、あと20%ほどアップが必要である。漢字や計算など、繰り返し練習すれば点数が上がる内容なので、効率的な反復学習が必要である。基本的な学習は90%の達成を目指していく。	家庭と連携し家庭学習の充実を図る。またICTを活用しながら楽しく効率的に反復学習ができるよう指導する。補助教員を通してつまづきがちな児童を支援しつつ、地域未来塾と協力体制を組んで学習をサポートしていく。	残って指導を続ける取組が良い。 学習で宿題をやる児童が多いので、指導のしかたを連携していけるとありがたい。	3.6		
豊かな 心の 育成	日々の活動を通して、いじめ撲滅への取組を図る。	いじめの未然防止に常に取り組み、早期発見、早期対応に努める。	・教員はいじめを許さない指導をしていると感じている児童の割合 ・教員はいじめを許さない指導をしていると感じている保護者の割合	90	95	A	児童は90%近くの高い割合で、教員がいじめを許さないと感じている。保護者も80%と高い評価をしている。年2回のいじめアンケート実施、聞き取り、日頃教員へ相談しやすい雰囲気づくりも影響していると考えられる。	休み時間児童と一緒に遊ぶ教員も多く、授業以外でも児童と関わり、良い関係を築こうと努めている。信頼関係から児童から相談を受けることも多い。自分の思いと相手の認識が違ってトラブルになることも多いので、相手意識を育てる指導を充実させていく。	いじめに関してアンテナを張って取り組んでいると思う。これからいろいろな意見を聞いてほしい。	4.0		
	持続可能な社会づくりに向けた意欲と行動を育成する。	持続可能な開発目標(SDGs)17「パートナーシップで目標を達成しよう」を基軸にし、学級活動や児童会活動を通して、共創し行動する力を身に付けさせる。	・休み時間に校庭でみんなと仲良く遊んでいる児童の割合 ・自分の子が休み時間にみんなと仲良く遊んでいると感じている保護者の割合	90			88	A	児童の評価が12月80%に表れているように、寒くてもどこへかボール遊び、運動など、遊びを通して友達とのかわり方を学んだり、体を動かすことで元気で健康的な学校生活を送っている。なわとび月間を通して、苦手意識を克服し大技ができる児童が増えた。	若手教員も一緒に遊ぶ姿が見られ、学校経営目標の1つ「みんなで遊ぶ学校」が浸透した成果である。朝遊び、休み時間の遊びなど、本校の児童が遊びが大好きである。学習以外に友達を思いやることなど、遊びから学ぶことも多い。引き続き教育活動で重点を置く。	朝学校を通りがかった時も、いつも楽しく外遊びしている元気な児童の様子が見られる。遊びを通して、友達と仲良くすることも重要である。	4.0
	生命を尊重する態度を育成する。	ウサギ、ウコッケイ、ヤギの飼育活動を通し、動物愛護の心を養う活動を進めながら、生命を尊重する態度を育成する。	・動物とかかわることが好きと感じている児童の割合 ・様々な飼育動物がいることで、自分の子の心の成長に良い影響が見らると感じている保護者の割合	95	92	A	92%の成度で評価されている。特別支援学級の児童がヤギ、飼育委員会がうさぎの世話を中心となって行っているが、休み時間にはいろいろな児童が触れ合っている。生き物のふれあいから情操教育に大きな成果があると捉える。	動物は喋らない分、かわいだけでは何をしたいのかを考えて触り方を考えたり、えさを工夫したりして動物に関わっている児童が多い。生き物に関わることでの大切さや相手意識を育てることにつなげていく。	当番活動を通して、やぎを見るたび逃げ回っていた子が、積極的になんか話しかけられるようになり成長を感じる。 学校・子供・保護者が協力し取り組んでいると思う。	4.0		
健やかな 体の 育成	学校2020レガシーを構築する。	運動やスポーツへの興味・関心を高め、体力を高める活動の充実を図る。	・自分からすすんで運動やスポーツをしている児童の割合 ・自分の子がすすんで運動やスポーツをしていると感じている保護者の割合	90	84	A	評価が70%台とやや低めである。1学期は長縄大会で学級単位で集中的に練習をした成果もあるが、行事がないと進んで運動しない児童もいる。ドッジボール大会、サッカー大会など運動が好き児童は意欲過に何でも参加しているが、苦手な児童への対応が必要である。	体育委員会主催で、宝取ゲーム大会など実施し、全員が楽しく参加できる運動を工夫してきた。苦手な児童も参加できる活動を、来年度も工夫して設定していく必要がある。今後も、体育的活動にも重点を置いて取り組んでいる。	・ドッジボール大会、駅伝、サッカー大会に出場する児童がたくこんは。若手教員が頑張るって中心になって指導し、参加していることが大切である。	4.0		
	健康的な生活習慣の確立を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために健康的な生活習慣を送れた児童の割合 ・自分の子が継続して健康的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者の割合	100			82	A	80ポイントを超える高評価である。「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」は、児童の健康、学力向上にもつながる重要な項目である。さらにポイントアップを図っていく。	健康な生活習慣づくりに向け、各自意識していることが伺える。家庭の協力が不可欠であるので、引き続き生活リズムカードを続けて意識づけをしながら健康増進を図っていく。	家庭環境に左右されるが、小学生の時期の健康管理は成長に大きく影響するので、引き続きお願いしたい。	3.6
信頼される 学校 づくり	日常の学校生活の中で礼儀的な生活習慣を確立し、より良い生活環境や人間関係を構築する。	挨拶、整理整頓、身だしなみ、言葉遣い等の礼儀的な生活習慣の定着を図るため、年間を通して、適宜指導に取り組む。	・礼儀的な生活習慣が身に付いている児童の割合 ・自分の子に礼儀的な生活習慣が身に付いていると感じている保護者の割合。	95	79	B	70%台の低めの評価で本校の課題であると捉える。挨拶、校帽の着用は日々声掛けをしているが、「うさい」「きもい」「しね」などの言葉を安易に発している児童もいる。自立していく中で、言葉遣い、礼儀については日常的に指導が必要である。	朝会での講話、道德の授業など学校生活全体を通して、卒業後にもとしての儀の大切さを指導している。家庭での言葉遣いにも大いに影響するので、保護者会等でも伝えていく。	挨拶、校帽着用、靴のかかとそろえなど、ルールをきちんと守ることは社会に出た必要なことであるので小学校のうちから守らせていた。	3.6		
	誰一人取り残さない学校を創る。	児童に対して、受容的な接し方を教員が身に付け、児童の言葉に耳を傾け、褒める・叱るのメリハリのある指導を行う。	・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている児童及び保護者の割合	100			91	A	保護者の評価が12月には3ポイントアップし、高評価である。教員が親身になって児童の言葉や聞き姿勢は、「誰一人取り残さない学校」づくりには不可欠である。児童・保護者からの信頼を得る一番大事な内容であるので、全教員ができるようにしていく必要がある。	児童が悲しむ原因は、「先生が話を聞いてくれない。決めたててしまふ。」ことだという声を聞く。問題行動を指導する厳しさは必要であるが、児童の話を聞き児童に寄り添う姿勢は引き続き意識をするよう努めていく。	学校評価でもポイントが高い。教師と子供との関係が良いことがうかがえる。	4.0
	自分の身を守るために、自分で考え、判断し、行動できる児童を育成する。	安全指導計画を基に避難訓練や交通安全教室、セーフティ教室、ネットのトラブル等の安全教育的工夫を図る。	・危険を予測し、回避できる児童の割合 ・自分の子が危険を予測し、回避しようとしている力を身に付けていると感じている保護者の割合	95	88	A	90%台の高めの評価である。月1回の安全指導、避難訓練を行い、児童が自分で身を守るための方法を、警察の協力も得て学んでいる成果であると捉える。子供110番の家、「いかのおすし」「おかしも」の合言葉が形骸化しないよう、指導をしていく必要がある。	地震、火災、不審者侵入など、昨今の課題となる項目を取り入れて引き続き指導をしていく。SNSのトラブルも実際増えている。スマホなど家庭で持たせているものもあるが、使い方を間違えるといじめにつながるの、計画的に指導をしていく。	年間を通して計画的に良くやっているとと思う。	4.0		
【達成度】＝【達成値】／【目標値】 【達成】：A：2割以上→目標達成とみなし、新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し											平均値	3.9

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第二小学校

経営理念	「児童と教師が自分らしく生きまきと学び、共に成長し、一人一人が明るく輝く学校」 (1) 児童一人一人が自信を持ち、学びのエンジンを動かして、伸びる喜びをつかむ。 (2) 輝かな自由環境をもち、周りの人を大切にす。 (自分が好き、みんなが好き) (3) 保護者・地域との協働により、児童の安心と安全が、保障される。
------	---

【学校運営協議会・会長】 加藤 浩一 学校運営協議会（学校評価分）第1回 6月10日（金） 第2回 9月 2日（金） 第3回 1月27日（金）
--

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価	意 見	評価点 (4点満点)	
				目標値	最終評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)				
確かな 学力の 向上	学習内容の確実な定着と充実を図る。	学習の見通しや達成感をもてるように、授業の導入部で学習の「ねらい」を共有し、授業の終わりには学習内容・方法の「まとめ」のある授業を積み重ねる。	・授業が分かったと答えた児童の割合 ・学力が身に付くような授業をしていると感じている保護者の割合	90 82 82	91	A	□多くの児童が授業が分かったと回答している。今後も児童一人一人の考えを大切にし、授業改善に努めていく。	・今年度は目標値を90にしたが、目標達成のため、さらなる授業改善に取り組む。 ・今後も、「ねらい」と「まとめ」を意識した授業を積み重ね、学校全体としての学力向上に努めていく。	・ねらいを明確にしたのは、よい。児童が目的意識をもって学習に取り組むことができる。	4.0	
		チャレンジタイムや家庭学習（宿題）等を活用し、反復練習（読み・書き・計算）を強化していく。	・児童と保護者がチャレンジタイムや家庭学習を必要と感じる割合	85 78 75	90	A	□7割以上の児童、保護者が「チャレンジタイムや宿題で、学習内容が分かるようになった。」と感じている。宿題に取り組むことで学習内容の定着が図られる。今後も、基礎学力の定着のため、家庭の協力をお願いしていく。	・今年度は目標値を85に上げた。達成度90%で、目標を達成した。 ・学習内容の定着を図るために、チャレンジタイム（補習）を充実させていく。	・家庭学習は、学習内容を定着させるうえで、大切である。さらに家庭と連携して取り組んでほしい。	4.0	
		算数科を通して、みんなで考えることを楽しめる児童を育成する。また、算数科の習熟度別学習と、東京ベシックドリルの活用を行い、算数科の基礎力の習得を確かにする。	・みんなで考えながら算数の問題を解くことが楽しいと答えた児童の割合 ・算数科の基礎力が習得できていると感じている保護者の割合	80 71 70	88	A	□7月、12月のアンケートともに、「よくあてはまる」、「あてはまる」を選択した児童、保護者は7割程度である。自分の考えを伝えたり、友達意見を聞いたりすることで、学ぶ楽しさを感じられるような授業を展開していく。	・東京ベシックドリルを有効活用し、個別の対応をしながら、基礎基本を中心に学力の向上を図る。 ・学習における児童の主体性を尊重していく。	・与えられた課題ではなく、自分でよく考え、問題を見付けていく力の向上がこれからの学習には必要である。	4.0	
		「特別の教科 道徳」の授業を充実させる。	写真や挿絵等の資料提示や補助発問等の工夫を図りながら実践をする。また、「考え、議論する」道徳を展開し、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにする。	・自分の考えや他者への思いを深めることができた児童の割合 ・自分の子が道徳の授業を通して、考えを振り返ったり、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにしていると感じている保護者の割合	85 74 71	85	A	□「よくあてはまる」、「あてはまる」と答えた児童、保護者は、7割程度である。道徳の授業や日常で様々な問題場面に会った際に、その状況に応じて考え、判断ができる児童を育てていくとともに、道徳授業地区公開講座等を利用し、学校や家庭、地域が連携を深められるように取り組んでいく。	・一人一人が自分の考えを広げ、深められるようにしていく。 ・道徳授業地区公開講座をもっと身近なものにしていく。	・これからの生活には、道徳の学習が大事になってくる。丁寧な指導を望む。	4.0
		体験活動や交流学習に取り組む。	ふるさと教育の体験活動や高校生との交流に取り組み、一生懸命全力で頑張る素晴らしさを実感させる。	・体験学習等が楽しいと答えた児童の割合 ・自分の子が体験学習等を楽しいと感じている保護者の割合	90 86 90	97	A	□9割近くが「楽しんで学習できた。」と答えている。楽しみながら活動することで、より地域のことや伝統的な文化に興味をもつことができる。これからも地域に根付いた活動を大切にしていきたい。	・体験学習の成果と課題を深め、児童の成長につながるよう指導の工夫・改善をはかるために、年間指導計画に位置付け、意図的・計画的に取組を進める。	・村山には、様々な特色がある。これからも、ふるさととして大切に守ってほしい。	4.0
		読書活動の充実を図る。	ブックトークや読み聞かせ、貸し出しカード等の工夫を図り、学校図書館の本を年間50冊以上を借りるとともに、心に残った本を3冊以上あげられるようにする。	・学校図書館貸出数、50冊以上を達成し、かつ、心に残った本が3冊以上ある児童の割合	85 69 66	79	B	□達成度は7割を切っている。すすんで本を読む児童が増えるよう、今後も図書館の時間における読み聞かせや本の紹介を通して本に親しむ機会をつくることや本を読む楽しさを伝えていく。	・来年度の目標値は引き続き85とする。 ・学校司書と図書担当教員の連携を深め、図書委員会の活動の充実を図っていく。 ・児童の興味や関心を高めるために、家庭での読み聞かせや読書をお願いしていく。	・豊かな生活をしていくためには、読書は重要である。読書の習慣が付くよう願っている。	3.0
健やかな 体の 育成	基本的な生活習慣の確立を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために実践できた児童の割合 ・自分の子が継続して基本的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者の割合	85 81 79	94	A	□各家庭の継続した取組の結果、よい成果が出ている。今後も保険の授業や給食指導等で「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを伝えていく。	・基本的な生活習慣の定着が図られている。 ※新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度も学校で歯磨きを行っていません。	・家庭と連携し、遅刻を減らす手だてを講じてほしい。	4.0	
	体力の向上を図る。	個や能力に応じた場の設定等、体づくり運動の充実を図り、運動量を十分に確保できる指導の充実を図る。	・体づくり運動に積極的に取り組んだ児童の割合 ・自分の子が体づくりくに積極的に取り組んでいると感じている保護者の割合	90 87 85	95	A	□「よくあてはまる」、「あてはまる」が8割以上と高い数値を維持している。体育の時間の充実を図り、児童の体力を向上させていく。	・中休みの5分間走や縄跳びへの取組を続け、児童の体力向上への意欲が継続していくように指導する。	・5分間走や縄跳び等よい活動を年間をとおして行うことができる。	4.0	
安全・安心な 学校づくり	自分で考え、判断し、行動できる児童を育成する。	安全指導計画を基に避難訓練や登校班指導、交通安全教室、セーフティ教室等の安全教育を充実させる。	・危険を予測し、回避できる児童の割合 ・自分の子が危険を予測し、回避しようとしていると感じている保護者の割合	85 75 78	90	A	□児童の9割以上は、非常時の行動が「適切にできる」と回答している。今後も、安全教育計画に基づいた避難訓練や安全指導を実施していく。	・保護者や地域、関係諸機関と連携し、児童の安心と安全を保障していく。※東京マイタイムラインの活用	・引き続きお願いしたい。	4.0	
	学校から保護者・地域への情報発信を積極的にを行い、双方の連携・協力体制を強化する。	保護者・地域に必要と思われる情報を適宜発信する。	・学校からの情報発信に満足している保護者の割合	80 60 70	81	A	□6割以上の保護者が「学校からのお知らせやHP等によって、学校の取組や児童の様子分かる」と回答している。一方、1割程度の保護者が「よく分からない」と回答している。児童の活動の様子を伝えるために、学校HPやツイッターを随時、更新していく。	・情報発信を新鮮なうちに継続的に行っていく。	・ツイッターで、学校や児童の様子がよく分かる。	4.0	
【達成度】＝【達成値】／【目標値】 【注】 A：8割以上→目標達成とみなし、新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し										平均値	3.9

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

武蔵村山市立第三小学校

【学校運営協議会・会長】 河野 省三
学校運営協議会（学校評価分）第1回 12月15日（木）
第2回 1月19日（木）
第3回 2月16日（木）

【達成度】＝【達成値】／【目標値】
 【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し

平均值	3.7
-----	-----

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第八小学校

経営理念	人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校
------	-------------------------

【学校運営協議会・会長】 井上 一弘			
学校運営協議会（学校評価分）	第1回	7月	14日（木）
	第2回	12月	8日（木）
	第3回	3月	9日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価				
				目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)	
				7月 達成値	12月 達成値	達成度	評価					
確かな 学力の 向上	《指導力の向上》 ◆(中期) 学習意欲、思考力・判断力・表現力の向上 ◆(中期) 知識・技能の確実な定着	◇授業改善推進プランに基づき、「学習意欲、思考力・判断力・表現力」の向上と「知識・技能」の定着を図る。 ◇東京ベーシック・ドリルの内容の、7割以上の定着を図る。	○(保護者アンケート)肯定的評価の割合 ○第5学年部調査と類似問題の結果の比較 ○ベーシック・ドリル診断テストCの結果	80		81	A	・学習意欲を高められるような授業展開などを工夫している教員が多い。また、児童アンケート、保護者アンケートの結果から「学習意欲の向上」の項目について、肯定的評価の割合が7～8割程度ある。 ・一方で、評価テストの結果から、知識・技能や思考・判断・表現力はまだ定着していない様子が見られる。	・校内研究で講師の先生から指導があったように、「全員が分かる授業」づくりを目指していく。そのために、今後も問題解決型の授業は継続し、知識の定着を図るために適応問題など授業に入れる。 ・また、習熟タイムでの個別指導を粘り強く行うなど、子に応じた支援にも力を入れていく。	・「全員がわかる授業」には、自己評価の達成感が低い。「話を一度で聞き取る子供の育成」との関係もあるのか。 ・昨年比べて評価が14ポイント上がっています。分析にあるように学習意欲を高められるような工夫をしている成果なのでしょうか。児童が理解できる授業にはやはり少人数での対応が重要になってくると思う。	4.0	
	《地域との連携》 ◆(中期) 保護者・教育支援ボランティア(地域)を活用した共同的活動の推進	◇「繰り上がり」「繰り下がり」の徹底を図る。(基礎学力の定着) ◇「かけ算九九」(基礎学力の定着)…11月、3学期末 ◇「八小なるほど塾」(基礎学力の定着)…2学期に実施「詩の暗誦」(基礎学力の定着)	○「伸びゆく子」の評価	80		85	A	・なるほど塾では、多くの保護者にあつてボランティアにご協力いただいた。夏の補習教室では、高校生に教わることもできた。子供たちが学習が分かる喜びを感じていたり、活動を楽しんでいる様子が見られる。	・「八小なるほど塾」を継続して行うことで、確実な知識・技能の定着を図っていく。 ・より多くの学習者に参加してもらえよう。保護者などで直接協力を促したり、学校通信で募ったりする。さらに協力を依頼できることを探していく。	・いろいろな人と関わりながら、自分が向上していくことにも喜びを感じていただきたい。 ・八小なるほど塾に地域の大人がもっと参加するようになれば、子供たちの意欲も高まるかもしれない。素晴らしい取組です。継続体制の強化を望む。	4.0	
	◆(中期) いじめ撲滅への取組	◇週1回の生活指導学会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○「ふれあい月間」の結果 ○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		99	A	・ふれあい月間の活用やいじめ防止対策委員会の報告によって、学校全体で取り組むことができた。 ・学年会で、いじめ認知の確認や現状の報告、協議を行ってきたことで情報を共有することができ、早期発見・対策につながっている。	・いじめ認知や報告、相談を学校全体として確実に行うことを継続していく。 ・また、いじめを事前に防ぐために、学級内で日ごろからいじめの重大さについて指導をしていく。児童の発言や行動がいじめにつながるものがあれば、厳しく指導するなど児童のサインを見逃さないようにする。	・人の痛みや、弱い人(物)へのいたわりなどが感じ取れる機会も大事かと思う。(生き物を飼うこと、花を育てることなど) ・達成感から来る楽しさや達成感に感じられるが、見過ごしはないのか。子供たちのちょっとしたサインを見落とさないように引き続き気を配ってほしい。	4.0	
	◆(中期) 特別支援を要する児童への対応	◇特別支援コーディネーターを中心に学校(担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、SC、特支専門員、等)と保護者、外部機関(教育相談、医療、等)で適切な支援の共通理解を図る。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、該当児童への支援の確認と協議を行う。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80		89	A	・週1回の学年会での情報共有や相談、月1回の特別支援校内委員会への情報共有、支援の確認を行うことができている。また、校内委員会で話し合った内容を、生活指導学会で共有することができた。 ・保護者アンケートの「個に応じた学習指導」の肯定的評価が8割以上ある。	・特別支援コーディネーターや特別支援校内委員会にも積極的に共有を図っていくことを今後も継続していく。 ・担任だけでなく、複数の教員やSCなどに様子を見てもいい、適切な支援を考えていく。 ・保護者対象に講演会や研修会を企画したり、市の講演会をもっと紹介したりできるとよい。	・個性を伸ばしながら、少しずつ他の人と関わる機会が増えるようになればよいかなと思う。 ・特別支援学校の先生は対応が多岐にわたって非常に大変だと思います。先生方の心のゆとりがとれているかが気になる。	4.0	
豊かな 心の 育成	◆(中期) 思いやりの心をもち、明るい挨拶や会釈のできる子供の育成	◇「挨拶の励行」を推進する。(随時) ◇【徳育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ◇校外学習を徳育科の実践の場と捉え感謝の気持ちを言葉や態度で表せるようにする。	○(自己評価)児童の行動についての肯定的評価の割合 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		90	A	・挨拶の励行を推進し、多くの児童が元気に挨拶できており、子供たちの自己評価も肯定的評価になっている。 ・顔見知りの教員には挨拶ができるが、学校のために働いてくださっている主事さんなどにすれ違うときに、挨拶できていないこともある。思いやりの心とリンクした挨拶となるよう、引き続き指導が必要。	・指導法を工夫した徳育科の授業を継続して行う。 ・教員が、率先して挨拶や会釈をする姿を見せ、気持ちも態度で表すようにさせていく。 ・毎朝の挨拶や帰りの挨拶など、一つ一つの挨拶を丁寧にやるなど日頃からの徹底指導をしていく。	・顔見知りの他人と挨拶を交わすのは、大人でも気が引けることもあるかと思いますが、自分から挨拶することができるようになってほしい。 ・長い間方を入れてきた課題だが、校内だとほぼ出来ているように感じる。大人が率先して声かけを続ける事が大事だと思う。家庭での挨拶の励行を確認してみてもどうか。	3.0	
	◆(短期) 話を一度で聞き取る子供の育成	◇「教室の中で話しているのは一人」の「教室」を、全校朝会、児童集会、学年集会、等の場に拡大し、推進する。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80		73	B	・聞き返して話し途中で話したしまった児童が多い。 ・全校朝会や集会では、話をせずに聞くことができてが、集中して聞き取ることができていない児童も多かった。 ・聞き取るという能力的なところが目立つ。	・改めて話を聞く大切さについて教科を問わず指導していく。 ・全校朝会や集会では、話を聞かずに聞かせるのを防ぐ。また、「めかか」を今まで以上に意識させる。 ・毎日の授業で、自分で判断して行動する場面を多く設け、話を聞いて行動できている児童を価値づけていく。	・「できている児童を価値づけていくこと」に力を入れないと、できない児童の気持ちが心配になると思う。 ・唯一のB評価になっている。話を聞き理解をして行動に移すという事が子供たちにとって確認できると励みや競争心になるのではないかな。	3.0	
	◆(短期) 「早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き」の徹底	◇2学期、3学期に実施する健康チェックカードにより意識付けを図る。 ◇各学年の目標値を明確にし、8割以上の定着を図る。	○生活リズムの集計結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		82	A	・児童アンケートでも、肯定的意見が多く、早寝、早起き朝ごはんの重要性を理解している。 ・健康チェックカードを活用し、寝るのが遅い児童、朝ごはんを食べていない児童には個別に声をかけている。 ・一方、寝坊を理由に遅刻する児童も一定数いる。	・ゲームのやりすぎなどで寝るの遅くなる児童もいるようなので、家庭と連携しながら、規則正しい生活を送る良さを指導していく。 ・日々の健康チェックカードなどを通して個別に必要な児童への指導を継続して行う。	・家庭環境により難しい児童もいるかと思うが、早起きすることの気持ちよさを、自分にとって良いことを感じ取れるように心がけたい。 ・他の小学校より登校時間が早い分、子供たちの生活スタイルをしっかり確認をして、目標を個別に伝え励ましてはどうか。	3.0	
	◆(中期) 運動好きの児童の育成	◇ハッピーチuesdayを活用した外遊びの奨励、なわとび集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇○J Tタ会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	○新体力テストの結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合	80		93	A	・休み時間は外に出て体を動かそうとする児童が多い。児童アンケートでは肯定的評価が多く、外遊びや体育の時間を楽しみにしている。 ・スポーツ選手を学校に呼んだり、体力向上月間が多岐にわたったりしていることが運動の意欲につながっている。	・体育の授業や、休み時間のクラス遊びの機会を充実させる。 ・教員の体育の指導力を向上させることで、運動ができる児童を増やそうと、楽しさを味わわせる。 ・寒い時期など、休み時間中教室に残ろうとする児童には、休み時間の度に声をかけ、引き続き指導していく。	・「出来るようになる」「上達する」「競う」など、自分が向上していることを感じ取れ、楽しみながらできてほしいと思う。 ・各家庭に帰るとコロナ禍などで外遊びが減っていると思うので、学校ではおもしろい運動が出来る環境を継続して欲しい。	4.0	
信頼される 学校づくり	◆(中期) 災害や犯罪に対応する取組	◇年間計画に基づいて、実際に近い想定で確実に実施する。(火災、地震、不審者侵入、電巻、引き取り、集団下校、暴風雨、セーフティ教室、自転車教室、交通安全教室)	○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		106	A	・児童アンケートの結果では、肯定的意見が多く、防災・防犯への意識が高まっているといえる。 ・毎回の避難訓練では、火災、地震、不審者侵入、電巻など様々な場合を想定して実施することができた。 ・訓練以外にも、社会科、総合的な学習の時間、徳育科の授業や生活指導を通して指導している。	・今後も避難訓練を行う中で、避難訓練の事前、事後指導を充実させる。 ・SNSに関するセーフティ教室を設定していくなど、警察署以外の機関との連携も今後は検討していく必要がある。	・自分を守ること、人に手を貸すこと、人の方を合わせること、いざという時に積極的に行動できるように心構えを見につけていただきたい。 ・防災意識が高まっていることは非常に素晴らしいと思う。但し自治会加入率も減っている中、自宅にいるときの自衛・公助の大切さも伝えていってもらいたい。	4.0	
	◆(中期) 「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、問題解決型の学習過程を身に付けること	◇全教員が「小授業スタンダード」に基づいた授業を1週間に5回以上行う。 ◇全教員が「一人一研究」に基づいた研究授業を年2回以上行う。	○(自己評価)授業後の肯定的評価の割合	80		83	A	・「一人一研究」の授業を年2回行うことで、問題解決型の授業を全教員が実施できるよう心がけることができた。 ・校内研究を基に、思考力が高まる授業づくりができていく。 ・問い返しを行うことや、全員がわかる事を目標とする、具体的に授業改善しようとしている教員も多い。	・「小授業スタンダード」に基づいた授業を今後も継続して行うことで、児童の肯定的評価を増やしていくようにする。 ・校内研究で、学びを自分の授業に生かしていく。そのために、教員間の授業参観をもっと増やしていく必要がある。	・いろいろな学ばなければならないことも多いと思うが、よく考えていこうと思う。 ・毎日の授業などで自己研鑽は非常に大変だと思うが、伸びしろが大きい子供たちのために頑張ってもらいたい。	4.0	
	◆(中期) 児童の健全育成、安全対策を推進するために、地域・家庭との連携を深めること	◇教員それぞれが、年間6回程度PTA活動や地域行事へ参加する。 ◇学級からの配布物、電話、面談、家庭訪問などの手段を用いて、適宜保護者と連絡を取る。 ◇年1回接遇研修を実施し、教員の対応力の向上を図る。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		91	A	・五中校区防犯パトロールに参加するなどし、地域の安全対策等を進めていることが心付けられている。 ・保護者と適宜連絡をとり、連携が図られている。 ・保護者アンケートの自由記述など、肯定的評価が見られる。 ・年間6回の地域行事・PTA行事への参加は、困難。	・家庭への配布物や電話連絡等を継続して行うことで、さらなる肯定的評価へとつながっていく。 ・可能な限り、地域行事へ参加することで地域・保護者との連携を深めていく。 ・一方、年間6回の地域行事・PTA行事への参加の目標が、妥当かどうか検討が必要。	・限られた時間なので「継続していくべきこと」「やめてもいいこと」「新規に行った方がいいこと」などを、考えることも必要かと思う。 ・地域行事に積極的に参加をしてもらうことで学校では見られない子供たちの様子や、地域の方達とのふれあいで、お互いにプラスになるのではないかな。	3.0	
【達成度】＝【達成値】／【目標値】 【編入】 A：2割以上→目標達成とし、新たな目標設定 B：2割未満5割以上→2割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し											平均値	3.6

【達成度】 = [達成値] / 【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表 武蔵村山市立第九小学校

経営理念	・夢や目標の実現に向けて、自らの道切り拓く子供を育てる学校 ・自己を確立しつつ、自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校	【学校運営協議会・会長】堀畑 英夫 学校運営協議会（学校評価分） 令和5年2月16日(木)
------	---	--

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価						学校関係者評価		
				目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)	
				7月 達成値	2月 達成値	達成度	評価					
確かな 学力の 向上	(中期経営目標) 質の高い授業の実現に努め、児童の学ぶ意欲や確かな学力の育成 (短期経営目標) 基礎的基本的な学習内容の定着と思考力・表現力の育成	朝学習、授業中、家庭学習で東京ベーシックドリルやくり返しドリル等を活用し、漢字、計算、言語等の基礎・基本の定着を図る。	基礎学力の目標である到達度の割合 (ベーシックドリル実施結果・児童アンケート)	75 (85)		93%	A	漢字・計算の習熟については、児童・保護者アンケートで肯定的評価が高い。ただベーシックドリルや学力調査の結果からは、時間の経過とともに履修した内容を忘れてしまう児童も多いことが分かる。何度も繰り返して学習し習熟を回る必要がある。また、家庭と連携した家庭学習の充実も必要である。	朝学習を強化し、漢字・計算のドリル学習を行う。ベーシックドリル週間の設定、タブレット等の活用なども含めた取り組みを行う。また、家庭学習習慣の重要性について児童・保護者に対して啓発を続ける。	アンケート結果からは分かりやすい授業を行っていると思う。小学校での基礎・基本はどれも大切なものらしく、興味深い授業になるようにしてほしい。習熟や理解が不十分なことは、そのままにせず、復習して習得することが大切であることから、家庭学習の導き方にも工夫をしてほしい。	3.4	
		学習の基盤となる言語能力を育成するため、言語活動を充実させた授業を展開する。思考力を付けるため、「自分の考えを書く」活動を重視する。	積極的に自分の考えを書く活動を行った児童の割合 (教職員・児童アンケート)	80	70	75	90%	A	自分の考えを書くことは、既習事項や生活経験、様々な情報などを整理し、筋道を立てて考えることにつながる。しかし高学年になるほど、書く内容が高度になることや、上手に書きたいという心理からか書けなくなる傾向があった。	「考えること」は「言葉」を通して行われることから、思考力を育てるためには言語活動の充実が必須である。文章の構成や書き方を具体的に指導し、児童が書くことに困難を感じることがないようにしていく必要がある。	受け身だけの学びにならないよう、自分の考えを書くこと、発信することを重視した取組を継続してほしい。また生活力上げるためにも必要な力だと考える。自分の考えを書くというのはハードルが高い子供がいることから、指導の工夫も必要である。	3.5
		指導体制や指導方法の工夫（学年内交換授業やタブレット端末等のICT機器の積極的な活用等）を通して、質の高い授業を提供し、児童の学びに向かう意欲の向上を目指す。	授業に対する児童の満足度（児童アンケート）	80	87	86	107%	A	児童アンケートでは、授業が分かりやすさに対する肯定的評価が85%を超えた。これは日々教員が教材研究や指導法の工夫について研修を重ねている結果であると考ええる。しかし全児童が「授業が分かる、もっと学びたい」という意欲がもてるよう、研鑽していく必要がある。	校内の研究会では、お互いの授業を見せ合い研鑽し合う時間を今年度以上に確保した。また、日々のOJT研修の機会を増やし、タブレット端末を活用した効果的な指導方法についても追究していく。	タブレット端末やICT機器を利用した授業は、子供の興味や可能性も広がるツールである。上手に活用し、質の高い授業作りに取り組み、教員の得意・不得意によって差が出ないようにしてほしい。タブレット使用やプログラミングの授業を行うための環境を十分に整備してほしい。	3.3
		学年に応じた読書目標の設定、ボランティアを含めた図書室の整備、読み聞かせボランティア活動の継続等を通して児童の読書習慣の獲得・定着を図る。	各学年の読書目標に到達した児童の割合（低学年は120冊・中学年は6000ページ・高学年は10000ページ）	70	23		32%	C	読書量については、個人による差が大きい。全体としては目標値には遠く届かなかったが、目標の3倍も読んでいる児童もいる。3学期は1〜3年生に向けて、保護者や地域の方による「読み聞かせ」を数回実施することができ、児童も熱心に関与する様子が見られた。	読書は豊かな心を育てることや、思考力を伸ばす諸量を増やすこともつながることから、引き続き重視する。図書委員会の主体的な取組も多く行われるよう支援する。達成目標については見直しも考えていく。	図書室はいつもきれいに整頓されて、読書目標の掲示やおすそめの本の紹介など様々な取組みがある。児童が読書目標に向かっている様子が想像される。今後も、子供たちが読書習慣を身に付けられるようにしてほしい。	3.6
豊かな心の育成	(中期経営目標) 安心・安全で、児童が前向きな意欲をもてる学校生活の実現 (短期経営目標) 道徳教育・人権教育の推進といじめ、不登校への取組	年3回以上のいじめ防止に関わる授業と毎学期の「学校生活アンケート」の実施。5、6年生対象の都スクールカウンセラー面談、縦割り班や学年内交換授業による複数の教員の見取り等により、いじめや不登校の未然防止、早期対応に努める。	楽しく元気に学校生活を送っている児童の割合 (児童アンケート)	100	87	85	86%	A	児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童は全校の平均で85%であった。低学年の方が高い傾向にある。この項目は100%を目指すものであることから、一層の努力を要するものと考ええる。	まずは楽しく分ける授業作り、安心して過ごせる学級経営に取り組む。また定期的な校内委員会、毎週の教職員打合せの時間を活用した情報共有やいじめや不登校の未然防止、早期発見に努める。	九小は全校の児童数が少なく、目が行き届く環境にあると思う。今後も子供に信頼される教師の育成やカウンセラーの充実、相談できる体制作りも重要である。いじめについて警察の方から話を聞くなどの機会もあるとよい。	3.3
		あいさつ、感謝の言葉、正しい言葉遣い等の相手を大切にする指導と、集団生活の中での規範意識の育成を継続的に行う。	相手への思いやりと規範意識に対する取組評価（教職員・児童アンケート）	80	80	80	100%	A	挨拶に関してはよくできている児童が多いが、言葉づかいに関しては課題が残った。ゲームの世界で使われる言葉が日常でも使われることがあった。児童アンケートでは自己評価が高かったことから、無意識での使用が考えられる。	言葉づかいについては、具体的な例を出して指導を重ねていく。規範意識については、低学年より高学年に課題があるため、道徳の時間や縦割り活動などで理解を深めていく。	通学時の子供たちからの挨拶は大変気持ちがいい。挨拶は人間関係の入口なので、その意味づけも考えさせたい。言葉づかいについては、すべての大人が手本を示さなければならない。相手を大切にする指導では、SNS関連についても重視してほしい。	3.3
		縦割り班活動、縦割り班掃除、縦割り班遠足等の異学年交流の取組を通して、年長者には役割と責任をもって集団に貢献する態度や思いやりを、年少者には感謝する心を育てる。	縦割り班活動についての児童の肯定的評価 (児童アンケート)	80	90	90	112%	A	児童アンケート・保護者アンケートともに縦割り活動に対する肯定的評価が高かった。実際、休み時間に子供が怪我をしたり、言い合いをしたりしていると、上級生が保健室まで連れてきたり、間に入って話を聞いたりする場面が見られ、思いやりや上級生としての責任という意識をもつ児童も多い。	これは九小が育ててきた年長者としての自覚が身に付いている結果であり、社会に出たときに大切な力になっていくことである。縦割り班活動は、集団への貢献と責任という意識を醸成するために大きな役割を果たしている。	縦割り班活動は長い時間をかけて育ててきた九小の伝統なので、これからもぜひ継続してほしい。今の時代だからこそ、下級生を思いやる心や、リーダーシップをとる力などをつけてほしい。	3.8
		特別支援教室、難聴言語学級の教員と学級担任との連携を強化し、合理的配慮や特別支援に関する教職員の理解を深め、児童への指導を行う。 各学級における特別な支援を要する児童の個別指導計画の作成とそれをもとにした指導の充実を図る。	教職員の取組評価と保護者の満足度 (教職員・保護者アンケート)	75	75	78	102%	A	定期的な校内委員会、毎日の職員打合せの時間などを活用して教員同士の連携を強化し、必要に応じて合理的配慮に関する授業も行っている。また、特別支援のアドバイザーによる研修会を行い、個に応じた支援に対する指導力の向上を図った。	道徳授業地区公開講座において、特別支援アドバイザーによる講演を行ったり、特別支援教室の授業公開や相談日の設定をしたりして、保護者の方々の理解も深め、連携して指導に当たれるようにする。	支援教室は大切なところであるので、学校公開や相談会などを開いたのはよかったと思う、対応も様々だと思うが、学校と保護者がよい関係を築いて、お互いに連携しながら子供に向かおうと欲しい。	3.7
健やかな体の育成	(中期経営目標) 丈夫な体とたくましい心の育成 (短期経営目標) 健康な体を意識させる日常的な指導の充実	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	体育授業における肯定的評価と外遊びをする児童の割合 (教職員・児童アンケート)	70	80	80	114%	A	マスクを付けている期間には、十分な運動量を確保することが難しくかった。しかし、3学期には持久走に取り組むなど徐々に体力向上の取組ができるようになっていく。	年間を通して、児童自身が体力向上に向けた目標をもたせることと、持久走や縄跳びに取り組む週間を設定することで、意図的に日常の運動習慣を養う取り組みを行う。	何をするにも、まずは体力が必要である。コロナ禍やゲーム等の普及で外遊びの時間が減ることはとても心配である。外遊びを奨励し、体育の時間も体力向上につながる活動を積極的に取り入れてほしい。	3.3
		保護者や児童に対して、健康増進に関する啓発を継続的にを行い、児童の健やかな体の育成を図る。	う歯の治療率・病欠欠席者数・学校保健委員会資料の提供（保護者アンケート）	70	99	97	140%	A	う歯の治療率は52%程度となっており、保護者に対する啓発が重要な項目である。この課題は全市的な傾向でもあり、今後とも市内の関係部署との連携をも視野に入れて改善のための手立てをさぐる。	引き続き、保護者への啓発を続け、治療率の向上を図る。特に卒の健診直後から夏季休業にかけての取り組みを強化する。	学校の健康診断は、親にとっても見逃していた子供の身体の問題に気付く貴重な機会である。特に歯の治療の大切さを子供にも家庭にもしっかりと伝えて指導を続けて欲しい。	3.5
開かれた学校	(中期経営目標) 積極的な情報提供、計画的な連携を地域・保護者と深める教育を推進する。 (短期経営目標) 地域・保護者との連携と、学校教育情報の積極的な提供	地域の人材・施設・自然環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を年間2回以上実施する。	教職員の成果評価 (教職員アンケート)	80	71		88%	A	コロナ禍でここ2年ほど地域との交流も途切れていたが、復活しつつある。教職員アンケートでは地域や外部の方々と連携した体験的な活動と2回以上行えた学級は70%であった。	次年度も、地域の人材・施設・自然環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を推進していく。どの学級も年間2回以上実施できるようにする。	日々忙しい業務の中、体験的な学習を取り入れるのは大変だと思うが、この地域でなければできない学習があるので、大事に伝えていって欲しい。子供たちを守るためには地域の目が必要であるので、今後も地域との関係を大切にして取り組んでほしい。	3.7
		情報提供手段として一斉メールの運用強化。月に4回以上のHP更新と学校・学年・学級だよりの充実を図る。	教職員の成果評価と保護者の満足度 (教職員・保護者アンケート)	80	88	90	111%	A	学校の情報提供については今年度も高い評価を維持することができた。2学期からはツイッターを始め、日常の学校生活の様子を届けられるように取り組んだ。欠席連絡は保護者の利便性を考慮し、ICTを活用した。	これまで紙ベースで家庭に配っていた学校だよりや学校通知を、データでも届けられるよう計画している。学校HPに掲載されるより早く、家庭に届くようにしていく。	毎月の学校だよりを楽しみにしている。学校ホームページ、学校ツイッター、メール配信などいろいろな情報が伝わってくるので家庭にとっても安心できると思う。さらに、ICT機器の運用を強化し学校HPの更新をしてほしい。	3.7
[達成度] = [達成値] ÷ [目標値] [評価]： A：8割以上目標達成とみなし新たな目標設定 R：8割未満5割以上8割を超えるまで継続実施 C：5割未満目標の見直し											平均値	3.5

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

令和４年度 学校自己 及び 学校関係者評価表 武蔵村山市立第十小学校

経営理念	「子供と大人がいつも寄り添い、共に学び、一人一人が育ちを実感できる学校」 ア 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして伸びる喜びをつかむ。 ・意欲をもって学ぶ力と学習に責任をもつ感覚を育てる。 イ 朗らかな気持ち（心）で、自分も他人も大切にする。（相手の心をよむ） ・自分のよさを知り、友達のをさを実感する。 ウ 体力向上の活動にすすんで参加し、健康でたくましい体をつくる。 ・体育授業や体力向上の取組の充実により、運動の楽しさを実感する。
------	--

【学校運営協議会・会長】 吉田 豊
学校運営協議会（学校評価分）第１回 １０月２０日（木） 第２回 １月１２日（木） 第３回 ２月１６日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標 (評価の根拠)	自己評価			分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価			
				10月	2月	最終評価			意 見	評価点 (4点満点)		
				達成値	達成値	達成度						
学力向上	確かな学力の定着 ・基礎基本の確実な定着 ・問題解決的な学習の推進	学校の授業と個別対応（一人一台端末の活用等）との連携を図り、基礎・基本の定着を図る。	国語・算数の小テスト等で7割以上正答する児童の割合（教員の記録）	70		77	B	高学年では、授業で端末をツールとして活用し、学力向上に生かすことはできている。中・低学年に広げていくことが、次年度への課題となる。	授業中での端末活用のメリットを明らかにし、活用場面を絞っていく。また、宿題に端末を活用し、反転授業などの取組を広げていく。	・個別対応は重要です。端末等の機材を利用し、より一層楽しくて分かる授業を推進してください。	3.5	
		家庭学習の内容やカード等を工夫し、保護者と連携しながら家庭学習時間（学年×10＋10分）を徹底させる。	学年に応じた家庭学習時間が定着している児童の割合（児童評価）	70		33	C	保護者アンケートからも、家庭学習は引き続きの課題となっている。eライブラリの活用とともに、自主学習による主体的な家庭学習を試行している。	自分で学ぶことを決める家庭学習の割合を増やし、まずは意欲的に取り組める時間を増やしていく。	保護者の理解や児童への声かけが最も重要ですが、児童が興味をもつような勉強方法を今後も考えて頂きたいと思います。	2.7	
		音読を国語の授業に位置付け、すらすらと音読できる児童を育成する。	すらすらと音読できる児童の割合（児童評価・教員の記録）	80		87	A	これまでの国語の研究成果により、音読を含めた読み取りの授業展開が定着している。	音読が学力の基礎であることを共通理解し、家庭学習での音読については保護者に啓発していく。	音読により、文章の内容を理解する力が伸びると思います。読書も大切なので、本を読む習慣を身に付けさせてください。音読は学びの土台です。特に力を入れて指導してください。	3.5	
		字を丁寧に書くことを指導し、習慣化できるようにする。	字を丁寧に書くことができた児童の割合（児童評価・教員の記録）	90		74	B	全校朝会等での呼びかけにより、字を丁寧に書く意識が高まっている。	「十小ひらがな検定」を充実させ、技能としての定着を目指す。	丁寧に書くことは大切です。字を丁寧に書くことや字の成り立ちにまで興味をもち、習得できることは大切です。	3.4	
		ICT機器（デジタル教科書・一人一台端末の活用等）の活用により、学習意欲や学習効率を高める。	学習意欲や学習効率を高められた授業の割合（教員の記録）	70		97	A	デジタル教科書は、全教員が活用できるようになり、授業の効率化につながっている。また、高学年ではプレゼン作成の機会を多用し、スキルが大きく向上した。	ICTを必然的に活用できるように、授業・家庭学習等の具体的な活用場面を設定する。	今後必要となるツールですので期待しています。	3.7	
		授業のユニバーサルデザイン化（焦点化・視覚化・共有化）を図り、分かりやすい授業を実践する。	一週間の内で、UD化できた授業時数の割合（教員の記録）	70		89	A	教室環境や授業の展開など、ユニバーサルデザインへの理解が学校全体として深まってきている。	共有化の場面において、ICTを活用した実践を蓄積し、共有していく。	伝統的に取り入れられているので、更なる発展を望みます。	3.8	
				57	63							
体力向上	人としての基礎づくり（心と体） ・人権教育の推進 ・豊かな人間性を育む教育 ・体力づくりの推進	体育授業の改善を図り、体力づくりを継続的に実施する。	「体育の時間が好きである」児童の割合（児童評価）	80		101	A	体育の授業に対して好意的であるとともに、体力を向上しようとする意識に動くこうとする児童が増えた。また、持久走にも粘り強く取り組み、成果が出てきた。	持久力の高まりが見えてきたので、投げる力の向上に力を注いでいく。	体育の改善は、運動好きな子が必ず増えます。難しい環境での指導ですが、体力は最も大切な取組です。	3.8	
		日常的に体を動かすことが好きな児童を増やす。	中休み・昼休みとも外遊びをしている児童の割合（児童評価）	70		76	B	多くの教員が外で一緒に遊んでおり、鬼遊びやボール遊びを楽しんでいる。年間を通した持久走や縄跳びの週間も功を奏し、多様な運動方法で高める様子が見られる。	授業と同様に、投げる力の向上を目指し、休み時間を活用した体力向上週間・月間を設定する。	体育が好きな児童が多いので、これからも積極的に外遊びをするよう声をかけてください。簡単な事でも、継続は力となります。	3.3	
豊かな心の育成	人としての基礎づくり（心と体） ・人権教育の推進 ・豊かな人間性を育む教育 ・体力づくりの推進	「いすを入れる」ことを通して、心の育成の基礎を養う。	「いすを入れる」ことができた児童の割合（児童評価）	90		99	A	「いすを入れる」という行為を通して、相手を思いやる心を育むことができた。	来年度も引き続き取り組み、目標値100の達成を目指す。	学校でも家庭でも守りたい基本です。当たり前前の事をやることが一番難しい年頃、とてもよい取組だと思います。	4.0	
		「特別の教科 道徳」において、自他の意見を尊重しながら考えを深めさせる。	道徳科で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりできた児童の割合（児童評価）	80		109	A	全校道徳や日常的道徳において、意見を言いやすい環境を整えることができた。	縦割り班での全校道徳を、全員が集会した中での実施を目指す。	道徳を大切にしている、よいことです。様々な体験を通じて、学びながら心の成長となります。	3.9	
		縦割り班清掃において、異年齢集団と協力しながらやりぬく力を付けさせる。	縦割り班清掃で協力できた児童の割合（児童評価）	80		107	A	縦割り班清掃に加え、遊びや避難訓練にも縦割りを導入したことにより、児童相互の交流に好影響が見られた。	縦割り班清掃を軸に縦割り班の結束を高め、今後も多様な活動で縦割り班を活用していく。	今後も続けて下さい。先輩から後輩に、正しく引き継がれていると思います。学年の違いのりをりこえて、みんなで協力し合っている。	3.6	
				87	86							
信頼される学校	子供を育てる情熱と向上心の醸成 ・教員自身の自己研鑽 ・いじめ・不登校対応	教員相互が授業を参観し、事後協議を経て授業力を高める。	授業交流を年2回以上実施し、授業力がアップしたと実感できる教員の割合（教員の記録）	80		98	A	日常的に授業公開を行うなど、多くの教員が授業交流の機会を得た。	週案を校務支援システム上で管理し、それを相互に見合う中で授業交流を進める。	授業力を高めることは重要です。厳しい状況ですが、工夫して実施したいと思います。	4.0	
		いじめを未然に防止し、発生した際には速やかに解消する指導を徹底する。	年3回のいじめアンケートで、いじめを受けていない児童（解消済み含む）の割合（いじめアンケート）	100		87	A	生活指導夕会などで毎週確認していることにより、いじめ防止のアンテナは高くなっている。	全校道徳などと連携していく中で、未然防止の部分を強調して行っていく。	スマホのSNSなどによるいじめや、教師や親の目の届かないところでのいじめに悩む児童がいるかもしれません。普段の様子を観察と同時に、随時アンケート等を活用して潜在的ないじめの発見・対応に努めて下さい。	3.6	
		児童が活躍できる機会を生み出し、「学校が楽しい」と思えるようにすることで、不登校を未然に防止する。	「学校が楽しい」と思う児童の割合（児童評価）	80		95	A	授業や休み時間に児童が楽しみにしている時間があることで、多くの児童が楽しく登校できている。不登校は数名いるが、各自が目標をもって取り組んでいる。	縦割り班での活動を様々な場面に広げることを計画しており、異年齢の中で所属感をさらに高めていく。	努力が伺えますが、今後も向上させて下さい。今は行事の縮小などで難しいですが、皆で支え合えればと思います。高学年になると、不登校が増加することが心配です。	3.3	
		保護者会の内容や手法（オンライン含む）を充実させ、参加率6割を目指す。	保護者会の参加率（学校の記録）	60		78	B	50%には届いていないが、写真や映像の活用、保護者相互の交流の2つの視点で、保護者会の改善に努めてきた。	写真や動画の活用により、学級の様子などは伝わりやすくなった。保護者会と授業参観を連携させるなどして、参加率50%を目指す。	保護者は、児童の学校での様子や授業の状況が知りたいのが実情です。これからも可能な限り情報発信をお願いします。参加率を上げる努力に感謝しつつ、お手伝いできれば幸いです。	3.2	
	開かれた学校 ・保護者・地域と、協働し共有する学校の推進	学校・学年・学級だよりやホームページのオンライン化を進め、計画的に情報発信する。	HPの更新率、学校・学年・学級からの情報発信を週1回程度の割合で実施（学校・教員の記録）	80		90	A	学級通信の発信については7割程度の学級に留まるが、アプリを活用した配信など、学校全体としてバランスよく情報発信できている。	アプリによる情報発信を学級に位置付け、よりリアルタイムな情報提供に努める。	全ての学校や職場でのテーマですが、週一回は教師の負担が大きいと考えます。	2.8	
		P T A活動・地域行事等に積極的に協力し、家庭を理解し、地域に溶け込む努力をする。	地域の行事等に教員の誰かが参加する割合（学校の記録）	100								
		学校運営協議会等と連携し、ボランティア参加者を募る。	行事に対するボランティア参加の割合（学校の記録）	100								

〔達成度〕＝〔達成値〕／〔目標値〕

〔評価〕 Ａ：８割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

Ｂ：８割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

Ｃ：５割未満→目標の見直し

平均値

3.5

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立雷塚小学校

経営理念	知性、徳性、体力、気力を育み、自分も他者も大切に、互いに気遣いができる人間性豊かな児童の育成を図る。
------	--

【学校運営協議会・会長】	吉澤 幹郎
学校運営協議会（学校評価分）第1回	2月20日（月）
第2回	3月16日（木）

	経営目標 （中期・短期を明記）	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価	
				目標値		最終評価		意 見	評価点 （4点満点）
				5月 達成値	11月 達成値	達成度	評価		
確かな学力の向上	全ての児童に対する基礎的・基本的学力の定着（中期）	①「授業改善プラン」による児童の実態に則した授業改善。 ②1単位時間の評価基準の観点を「週ごとの指導計画」に明記することにより、児童に力が身に付く授業作りの改善。 ③習熟度別指導、チームティーチングによる少人数指導、東京ベーシックドリルに、タブレット端末による個別学習など個に応じた指導の展開。	①②自己申告授業観察により、資質・能力の3つの柱の向上ができていくかを評価する。 ③東京ベーシックドリル診断シート及びワークシートにより達成率7割を超える人数で評価する。	80		80.2	A	児童のさらなる基礎学力の定着を図るために、ラインス「eライブラリ」や東京ベーシックドリルなどを活用して反復練習を積み重ねる。また、朝学習や家庭学習を有効活用し、継続的に計算練習や漢字の読み書きなどに取り組む。さらに、必要な児童に対しては、長期休業中や放課後の地域未来塾を実施し、補習学習を行う。これらの取り組みにより、基礎・基本の力を確実に付けていく。	3.5
	分かる授業への改善（短期）	①1単位時間の授業における指導と目標・指導・評価の一体化を基盤とした見直し、検討により、授業の改善を図る。 ②ユニバーサルデザインの観点や手法により、誰もが分かる授業改善を進める。	自己申告等の授業観察及び児童への授業後のアンケートにより、授業の内容の理解度を図る。理解している児童が被授業者の9割を超えるか評価。	80		70.8	B	「分かる授業」への授業改善について課題が見られた。日々のOJTや校内研修を活用したり、授業観察による指導を充実させた。ユニバーサルデザインを取り入れたりして、目標・指導・評価の一体化による児童が本当に分かる授業に向けての授業改善に取り組む。また、振り返りを通して、児童の分かるできるを確認していく。	3.8
	主体的・対話的で深い学びの実現（中期）	①GIGA端末を利用した自主学習や放課後等を利用した補習学習の実施により「指導の個別化」を図る。 ②協働的な学びの中において、児童が一人一人に応じた学習課題等を取り組む機会を提供することで「学習の個性化」も図っていく。	授業観察において、ほぼ100%の児童が主体的な学習活動を行っているか。	80		80.2	A	主体的な学び、対話的な学びについては継続して取り組む。次年度は、深い学びの実現に向け、児童自ら課題を見付け、主体的に解き、ICT機器を活用した協働的な学びのなかから、あててにせざる学習形態の工夫等により、協働的な学びの場面も多くなることができた。	3.9
豊かな心の育成	豊かな人間性の育成を目指した教育課程の編成（中期）	人権教育、道徳教育を通じて育っていく資質・能力の明確化及び重点化を図り、それを基にしたカリキュラムマネジメントを進める。	学校評価により、重点化した児童の資質・能力の向上を評価	80		83	A	来年度も人権尊重教育推進校として人権教育や道徳教育の充実を図る。具体的には人権集会を開いたり、人権コーナーを作ったり、全校道徳の日を月に1回設定したり、また、教師の日頃から人権を意図した授業等を行ったりして、より児童の豊かな人間性の育成に努めていく。	4.0
	豊かな人間関係づくり（短期）	①たてわり班活動、集会活動、学級活動等の特別活動の充実を図る。 ②授業中においては、対話的な活動、協働的な活動、体験的な活動を積極的に取り入れる。	人権教育アンケートにより、他者との関わりにおける項目での8割が肯定的となること	80		83.2	A	①感染症対策もあり、他学年との直接的な関わりが少なかった。たてわり集会や集会活動を活用して、他学年の児童同士の関わりがより深まるようになる。 ②ねらいを明確にした授業づくりを行うことで、必然性のある活動を取り入れることができた。それに伴い、児童同士の関わり合いも増加した。	4.0
	自己肯定感や思いやりの心の育成（中期）	①道徳教育を通した人権教育の研究を進め、自分も人も大切にすると人権感覚を養う。 ②互いを認め合う活動をあらゆる教育活動に取り入れる。	人権教育アンケートにより、自己肯定感における項目での7割が肯定的になること	80		80	A	各教科・領域の年間指導計画を見直し、人権教育との関連を明らかにした人権教育の年計画、年間計画を作成し、積極的に人権教育において身に付けてほしい資質・能力が身に付けられているかを検証した。日々の授業実践を通して、互いを認め合う場面を設定したことで、自他の大切さを感じることができた。	4.0
健やかな体の育成	体力の向上（中期）	①校内のOJT等により体育科の授業の充実を図る。 ②外遊びを励行し、持続力だけでなく、体力全般にわたって向上を図る。	体力調査により8判定以上が6割を超えるようにする。	80		74.6	B	今年度体力調査の結果では、多くの学年、多くの種目で昨年度より数値が向上した。感染症対策が以前より緩和され体育の授業や休み時間の過ごし方が以前の形に戻ってきたことが大きな要因と考えられる。また、中体みの外遊びの動行が数値の向上に貢献していると考えられるので、今後も引き続き実施していく。	3.0
	2020オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの継続（中期）	①校内における交流をさらに盛んにし、「障害者理解」を深める。 ②学級の係活動や委員会、さらに下級生のお世話などを通じて役に立つことの喜びを伝え、ボランティアマインドを育てる。	交流やボランティア的活動における観察で、児童が自然に活動してればよい。	80		75.4	B	日頃から、通常級と特別支援学級の交流が行われており、「障がい者理解」を十分に深めることができる環境になっている。少しずつ異学年交流も増えてきているので、児童にとってはい経験になった。また、下級生のお世話や落ち葉掃き、グリーン作戦などを通してボランティアマインドが育った。	4.0
※学校裁量	人権教育の一層の充実	①人権教育の価値的態度的側面の資質・能力育成を図るため普遍的な視点からの取組を充実させる。 ②人権プログラムのを最大限に活用し、校内の研修を重ね教職員の人権感覚を磨き、児童の人権感覚を高める。 ③年間4回の特別の教科 道徳による授業研究を実施し、人権教育の充実を図る。	人権教育アンケートにより評価	80		84.4	A	人権教育プログラムを活用した教職員の研究を実施し、教職員の人権に対する意識、感覚を高めることができた。今後は、掲示物等「個人の尊重」「社会規範」等の人権尊重の理念について学ぶ普遍的な視点からの取組の指導を行った。また、人権教育プログラムを参考に人権課題に関する児童の授業研究を行った。研究授業では低中学年と特別支援学級で普遍的な視点からの取組、高学年が個別的な視点からの取組の授業研究を実施、検討した。	4.0
	地域との深い連携を生かした教育活動を進める	①学校運営協議会における「教育支援部」の協力を仰ぎながら、地域の物的及び人的資源を活用した教育活動を計画的に進めていく。 ②第三中校区として、小中連携を進めながら、地域における交流体験、交流学習を実施する。	学校評価における地域との連携の項目で、7割が肯定的となること。	80		80.8	A	今年度は、総合防災訓練や水田学習報告会、国立感染症研究所の出席授業など、コロナウイルス感染症でできなかったことが少しずつ元通りにできるようになってきた。評価も8割を超えている。また、三中校区の連携では、ふれあいフェスティバルや授業研究など、様々な交流を行うことができた。	4.0
	「誰もがリーダー」主体的に仕事に取り組む人材が育つ「チーム雷塚」の創成	①任せ、見守り、育てることで、自ら考え、すすんで実践していき主体的な教職員を育てる。 ②教え、教わる協働的な職員室の雰囲気作りを行う。	・教員及び保護者への学校評価アンケートから、職場への満足感や教職員の外部への対応などの項目で8割の肯定的意見	80		81.2	A	学校自己評価アンケートから、職場での満足感が8割を超えている。教職員が互いに連携しながら職場に努めることができた。また、ベテラン教員や若手教員関係なく、声を掛け合いながら、協働的な職員室の雰囲気があった。	3.0
平均値									3.7

【達成度】＝【達成値】／【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

武蔵村山市立小中一貫校村山学園

平均值	4.0
-----	-----

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C : 5割未満→目標の見直し

経営理念	信頼でつながる取組～「地域と共に歩む小中一貫校」を目指して～保護者や地域の声に真摯に応える学校										【学校運営協議会・会長】 南谷尚 学校運営協議会（学校評価分）第1回 5月19日（木） 第2回 11月17日（木） 第3回 2月22日（水）		
	経営目標 （中期・短期を明記）	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校運営協議会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする)	改善策(来年度の目標及び具体的な取組目標等)	学校関係者評価			
				7月 目標値	12月 達成値	達成度	最終評価 評価			意見	評価点 (4点満点)		
確かな学力の向上	（中期目標） ・学び合いのある授業や家庭学習の定着等を通して新しい時代に必要なとされる確かな基礎学力の定着を図る	学年に応じた読書目標の設定、図書館司書を中心とした図書室の整備、読み聞かせ等の活動を通して児童の読書習慣の定着を図る。	各学年の読書目標を達成した児童の割合	50%				・1月末現在、目標達成者は全校で30％程度となった。目標には到達しなかったが、低学年を中心に児童の読書意欲の喚起は行えたものと考えられる。 ・学校アンケートの読書活動に関する評価は83％の肯定的な評価を得ることができた。	・読書活動は本校の教育活動の柱として重要なものである。学力向上の点からも読書習慣をもつ意義は非常に大きい。読書習慣の指標としてこの目標は次年度にも継続し、達成を図りたい。 ・これまでの取り組みは一定の成果を上げていると言えるが、もう一段の向上のため次年度は新たな読書キャンペーンを企画していく必要がある。	・図書の実践があるのはありがたい。教員による読み聞かせも良いことである。 ・朝読書の実施もあれば良いと思う。 ・続けていきたい活動である。	4.0		
	（短期目標） ①言葉で鍛える ②言葉でつながる ③言葉で磨く の3つを意識し、学び合う授業の日常的な実践に努め、思考力・表現力を伸ばす。 ・学習の土台となる基礎的な学力の向上をめざす。	日常の授業改善、家庭学習の習慣化等を通して基礎学力の向上を図る。また、学力向上に関する取組について積極的な情報発信を行う。（外国語活動等を含め）	・保護者アンケートの基礎学力に関する項目の肯定的評価85％	85%				・昨年同期より4ポイント改善している。基礎学力についての情報発信は十分とは言えない状況であるので、各学級の学級だより等で日常的な学習の様子と課題についてさらに発信につづけていく。 ・評価そのものについては昨年同期より6ポイント改善している。	・学習活動についての情報発信については各学級から発行された学級便りによるものが大きな効果をあげているものと思われる。 ・基礎学力に関する保護者の評価には一定のものが得られたので、来年度は児童の基礎学力そのものを評価する方法を模索し、これを評価指標として取り入れていくことを検討したい。	・学校生活や授業風景などが学級便りに伝えられるのでありがたいが、基礎学力についての発信はどのようなものだろうか。 ・学級便りが一番わかりやすい情報だと思う。	3.6		
		・授業者個々の課題に基づく実践的な授業研究を校内研究として取り組む。 ・小中一貫校規程である「わけを添えて」を意識した日常的な授業改善を行う。	・保護者アンケートの授業に関する項目の肯定的評価、平均90％以上（項目No15.～18）	90%				・達成度が低いのは外国語活動に関する保護者の評価が低いため。否定的な評価は3割であるものの、わからないが24％と多く、学習状況についての情報発信がやはり課題と言える。	・授業者各個人がテーマを設定して行う校内研究は予定通り実施され、各自が3回以上の授業研究を実施することができた。若手を中心に授業作りが学校の文化の中核になりつつあることは評価される。 ・総合的な数値での目標は達成されたが、項目別では依然として外国語学習に関する評価が低いことが課題である。評価について「わからない」の割合は減少しつつあるので、今後も学習に関する情報発信を続け、保護者の理解を得たい。	・授業研究、授業の工夫がもっとできるように、雑務を任せられる人材が必要ではないか。 ・教員の多忙が懸念される。 ・外国語については話すことよりも挨拶などが大切であると思う。	3.6		
				74%	77%								
豊かな心の育成	（中期目標） 望ましい繋がり機会を増やすことにより人権尊重の意識と豊かな感性の育成を図る。	不登校傾向の児童に対する個別支援計画を策定し、具体的な支援を継続する。	不登校児童ごとの支援計画作成	100%				・不登校児童全員についてその主たる原因などの分析は行えたが、具体的な支援計画の作成は今後の課題となっている。 ・不登校児童については部分的に登校できるようになった児童が複数いるなど、改善に結びついている例も見られるようになった。	・不登校児童の指導に関する支援計画は全員について作成することができ、学校として組織的な対応をする態勢は整えられた。 ・今年度は不登校児童の外部の支援機関との連携が図られるようになったことが評価される。直接の登校にはまだ結びつかないものの、児童の生活習慣を整える効果は期待できる。 ・来年度以降も新たな評価指標を策定し取り組みを継続していくことが必要と思われる。	・不登校の理由は一一人一人ことなるので、対応は難しい者と思われる。 ・登校を促すだけが良策ではないこともあるが、担任ではない児童も当該児童に声をかけられる場面もあり、学校全体の課題として捉えられることも大事である。 ・対応が難しい課題と思う。	4.0		
	（短期目標） ・不登校児童の課題に対する組織的な支援を充実させる。 ・いじめ未解決0を達成し、児童が安心して楽しい学校生活を送れるようにする。 ・学校行事や小中連携の取り組みを通して意欲的に活動する児童の自己有用感を育成する。	日常的に組織的ないじめ防止対策を迅速に行う。また、必要な情報の共有、伝達を的確に行う等の取り組みを通して「いじめ未解決0」を目指す。また、学校のいじめ対応等について適切な情報発信を進める。	保護者アンケートのいじめに関する項目で肯定的評価85％以上。「よくわからない」を10％未満	85%				・今年度はふれあい月間（いじめ対策重点月間）の取組を保護者にフィードバックする取組を始めた。しかし、評価についてはほぼ昨年と同様の結果となっている。 ・アンケート結果では「わからない」が39％と全体で最も高く、やはり学校の取組が保護者まで伝わっていない状況がある。	・いじめ対応については前期に比べ8ポイントの改善を見られた。これはやはりふれあい月間のフィードバックを毎週丁寧に行ったことが成果と考えられる。 ・同様に「わからない」の回答も9ポイント低下させてきた。この部分が肯定的な評価につながったものと考えられる。	・教員によって対応が違うとの話も聞く。これにより不信感をもっている保護者もいるようである。 ・教職員が真剣に対応している現場があり安心した。 ・難しい課題と思われる。	3.6		
		中一ギャップ対策の取り組み、地域活動への参加、国際理解体験などを適切に実施する	保護者アンケートの学校行事、特色ある教育活動、中学との連携に関する肯定的評価の割合	85%				・中学との連携活動は再開の方向にあるものの、十分ではない。また、地域活動は前期ではほとんど行われなかった。	・PTA、中学との連携活動ともに今年度は十分に行うことができなかった。（実施されたものは合同の挨拶運動、6年生の部活動体験・セーフティ教室程度）また、地域行事については夏のラジオ体操が今年度も実施され、秋の「野の宴」（雨天のため中止）も計画された。来年度以降はそれぞれの活動も再開できる展望が見られてきたので、継続した評価項目とした。	・地域の高齢化や近所づきあいの希薄さもあり、どんどん連携はなくなっていき懸念がある。 ・子供の安全など、町ぐるみでの活動は非常に大切だが、現実にはかなり難しくなっている。 ・中一ギャップについて、個人的な感想として小中の評価方法の違いがその一因ではないかと考えている。 ・一貫校の強みを活かした活動がされていると思う。	3.6		
				78%	76%								
健康な体の育成	（中期目標） 児童の基本的な生活習慣の改善を図り、運動意欲の向上を目指す。 （短期目標） ・児童の食に関する意識の向上を目指す。 ・課題となっている虫歯の治癒率90％以上を目指す。	栄養教諭を推進役として、本物を学ぶことによって自らの健康や栄養に関する望ましい態度や知識を身につける食育の学習を行う。	・食育、健康作りに関するアンケート項目（新設）での肯定的評価90％以上を目指す	90%				・アンケートの項目中トップクラスの肯定的評価を得ることができた。今後も維持発展させていきたい。	・年間を通して95％以上の肯定的評価を得ることができた。特に後期では61％の保護者から最も高い評価を得ることができた。 ・食育は七小教育の柱として定着していると評価できる。ただ来年度は担当者の異動が予定されており、学校として取り組みとその評価を維持できるかが課題となっている。評価指標としては来年度も継続していくことが必要と判断される。	・七小児童の体力は全国や市内と比較してどのような位置にあるのか？ ・食育活動は非常に充実していると思う。	4.3		
		健診後の連絡を徹底する等の取り組みを継続して行い、虫歯の治癒率向上を目指す。	・年度内の虫歯治癒率90％以上を目指す。	90%				・虫歯の罹患率そのものは昨年度より低下している。しかし、罹患している児童は家庭的に課題のある場合が多く、治療に結びついていない。 ・治療に関心を示さない家庭は昨年度と同じ家庭が多く、改善は困難であるが、将来の児童の健康を考えると手を引くべき課題ではなく、今後もさらに取り組みを続けることが必要な項目であると判断される。	・治癒率そのものは昨年度と比較して3ポイント程度向上させることができた。2学期以降も個別の治療給食を続けたことがある程度効果を上げていっているものと考えられる。 ・治癒に関心を示さない家庭は昨年度と同じ家庭が多く、改善は困難であるが、将来の児童の健康を考えると手を引くべき課題ではなく、今後もさらに取り組みを続けることが必要な項目であると判断される。	・手を引くべき課題ではないが、家庭の問題に学校が関与することは難しいと思われる。とにかく情報発信しかないのでは。 ・健康管理はとてとても大切です。虫歯や歯の管理は習慣でもあるので長く続けるべき活動である。	3.6		
				44%	51%								
信頼される学校	（中期目標） 地域・家庭から信頼され、連携して教育活動を行う学校を目指す。 （短期目標） ・適切な情報発信により学校の姿、課題等が地域・家庭に適切に伝わる。	学校HPや学校からの文書を通じて正しくタイムリーな情報を発信する。今年度は特に学校ホームページの改善や定期的な更新に心がけ情報発信の充実を図る。	保護者アンケートの全項目で「わからない」の回答を10％未満とする。（項目数割合）	100%				・昨年同期より20ポイントほど改善している。（前段階） ・「TEIURU」と言う連絡システムを導入したことにより、課題への連絡内容を充実させることができた。評価の改善にはこのアプリの効果も含まれていると思われる。	・昨年度に比べて35ポイント程度の改善をみることもできた。やはりこれは今年度導入した連絡アプリの効果の大きい。手帳に連絡できる上、これまで発信が困難だった等々も配信できるようになったことが大きいと思われる。 ・各クラス担任が発行している「学級便り」も大きな効果を発揮している。クラスによっては年間100号を超える例もあり、保護者からも高く評価されている。	・学級便りは本当に頭が下がる。忙しいなか、感謝する。 ・TEIURUも大変便利なツールでこれもありがたい。 ・地域への発信はなかなか難しいのではないかな。 ・アプリの利用はとても効果的である。	4.3		
		定期的な研修の実施や情報提供を通じて服務事故発生0を維持する。	服務事故発生0の維持	100%				・服務事故発生0は学校として当たり前のことであり、維持していく。 ・一方で、事故はいつでも起こりうるという認識で職員の研修や必要な情報伝達を計画的に行っていく。	・服務事故は0であることが当たり前であり、学校として最低限維持しなければならないラインである。今後も気を許すことなく取り組み続けていかねばならない。来年度以降も評価項目として残り、100％の維持を続けていく。	・ぜひこのまま継続されたい。	4.3		
				100%	100%								
平均値												3.9	

【達成度】＝【達成値】／【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校

経営理念	小中連携を通して「値」「徳」「体4の調和のとれた、自主・自立のできる人間性豊かな生徒の育成を図る。
	○ 確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランス良く身に付けた生徒
	○ 生徒を温かく見守り、「主体的・対話的で深い学び」で学力を伸ばす教師
	○ コミュニティ・スクールの機能を生かす。保護者・地域と情報や理念を共有して小中一貫教育を進める学校

【学校運営協議会・会長】 榎野 秀幸			
学校運営協議会（学校評価分）第1回 4月 26日（火）			
第2回 11月 22日（火）			
第3回 3月 7日（火）			

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価			
				目標値	基準評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)		
確かな学力の向上	【中期】 基礎・基本の学力の定着を図る 【短期】 授業力を向上させ分かる授業を行う	・東京ベシック・ドリルを活用した数学の基礎的・基本的な学力の定着の徹底を図る。 ・ICT機器及び一人一台端末の活用による、学習に主体的に取り組む態度を育む。 ・学習教室や外部人材の活用により、学習機会の充実を図る。 ・小学校とブリッジプログラムを推進し、生徒のつまずきに対応する。	・東京ベシック・ドリルの達成度評価 ・教師の自己評価 ・生徒の学習意欲に関する調査	80%	85	A	・数学において東京ベシック・ドリルを活用することにより、生徒の基礎的・基本的な学力を確実に向上させることができた。 ・放課後の学習教室や数学・英語を中心として授業に地域人材や大学生のボランティアを導入し、習熟の程度の遅い生徒への支援を確実に行うことができた。 ・小学校とのブリッジプログラムを踏まえた研究授業を行い、小・中の教員間で情報共有を行った。	・継続して数学で東京ベシック・ドリルに取り組ませ、基礎・基本の徹底を図る。 ・学習教室への参加者の拡充や学習機会の確保に引き続き取り組み、習熟の程度の遅い生徒の学力の底上げを図る。 ・ブリッジプログラムを踏まえた小中連携した教科指導等での取組を計画し、取り組んでいく。	・習熟度別ワークを取り組ませるなど、教員の負担を減らしながら向上させたらどうか。 ・ブリッジプログラムの内容を聞いて、とてもよいプログラムだと思いました。準備が大変だと思いますが、続けてほしいと思いました。	3.0	
	【中期】 基礎・基本の学力の定着を図る 【短期】 文章に親しみ読み取る力を伸ばす	・スプリングコンテストや漢字テストを継続的に取り組み、定着が図れるよう行う。 ・朝の読書を通じて読書習慣を定着させる。 ・図書館を活用し、司書と連携して本への興味・関心を高め、読書量を増やす。	・スプリングコンテストの上位得点者の比率 ・教師の自己評価 ・図書室利用調査	80%	77	B	・漢字テストを毎時間実施することで、漢字が書けるようになってきた。スプリングコンテストは取組意識のさらなる向上が必要である。 ・朝読書は完全に定着し、生徒は積極的に読書をしている。 ・学校司書との連携により、生徒の興味・関心を高める書架整備、ポップ作りを行い、読書量の増加を図った。	・漢字テスト、スプリングコンテストに「勉強をしないて臨む」生徒を減らす取組の工夫を行う。 ・引き続き朝読書を実施し、多様な書物に触れる機会を作る。また、学校司書、図書委員会の連携の下、さらなる読書量の増加を図っていく。	・「勉強をしないて臨む」生徒を減らす具体策はあるのか。 ・ペラ一校のものを七小のように配置してみた。 ・勉強の仕方を指導してほしい。 ・理科・社会も小テストを実施しては。 ・単元テストだけにしてもいいのではないかと思います。	3.0	
	【中期】 言語活動の充実 【短期】 行事に向けて学級内での話し合い活動を活発に行う	・全ての授業に意図的・計画的に言語活動を取り入れ、主体的、対話的で深い学びの充実を図る。 ・話し合い活動を中心に特別活動を展開する。 ・行事の振り返りを各学級で話し合せてまとめる。	・教師の自己評価 ・生徒の自己評価 ・行事の反省アンケート	80%	75	B	・感染症対策に留意しながら、教科等の学習において意見を共有したり考えを出し合ったりする言語活動を設定し、主体的・対話的で深い学びの推進を行った。 ・特別活動において生徒の実行委員会を立ち上げ、話し合い活動を中心に取組を進めていくことができた。 ・行事の振り返りを話し合いによりまとめる活動を行った。	・国語を中心として話し合い活動の充実を図り、各教科等で言語活動を設定して考えを表述したり意見をまとめたりする学習を行っていく。 ・特別活動での話し合い活動の一層の充実を図る。 ・行事の振り返りは継続して行っていく。	・世間に出て求められるのはコミュニケーション能力と協調性なので、全員発言する機会を数多く。	3.0	
豊かな心の育成	【中期】 思いやりのある生徒を育ていじめを撲滅する 【短期】 道徳教育の充実を図る	・心に迫る教材の開発と活用を推進する。 ・ローテーション授業を行い道徳の授業を充実させる。 ・連絡票を活用して教育相談機能を充実させる。	・教師の自己評価 ・生徒の自己評価 ・生徒へのいじめ・生活アンケート調査	80%	82	A	・「特別の教科 道徳」教科書の教材活用方法について研究するとともに、新しい道徳教科書の開発を行った。 ・ローテーション道徳を行い、多様な価値観、多面的・多角的な考え方を生徒に提示して道徳授業の充実を図った。 ・連絡票の活用により、スクールカウンセラーとの連携や教育相談諸機関と連携して教育相談機能を充実を図った。	・道徳授業の取組をさらに他教科等と連携させ、取組の充実を図る。 ・教育相談機能について保護者や地域にも周知を広げ、活用の推進を図る。また、外部機関との連携について更なる充実を図る。	・四中の生徒はできていると思う。	4.0	
	【中期】 生徒の自主性・自律性を高める 【短期】 生徒主体の達成感のある行事の創造	・生徒実行委員会を中心に、一人一人が役割をもって行事運営に取り組むよう指導する。 ・委員会活動の充実を図り、生徒会朝礼を通して自治活動の活性化を図る。	・教師の自己評価 ・行事の振り返り作文 ・生徒委員会の反省 ・保護者の学校評価	80%	88	A	・運動会、合唱コンクールを始め各学年行事等についても生徒実行委員会を中心に企画・立案を行い、学級活動を通して生徒一人一人に役割をもたせ行事の運営に取り組まることができた。 ・委員会活動についても委員長を中心に自治活動の充実を図ることができた。	・学校として「生徒が作る行事」の伝統を今後も継続し、主体的に参画できる生徒の育成を図っていく。 ・自分たちの生活について課題意識をもちその改善に取り組む生徒の育成を今後も推進していく。	・四中の生徒はできていると思う。 ・行事の実行委員の企画立案はよい取組だと思います。やる気、行事が盛り上がります。 ・生徒主体でイベントなどを進めていく姿が見えます。すばらしいです。	4.0	
	【中期】 一人一人を大切にするとする生徒指導の実践 【短期】 特別支援教育の充実	・不登校や特別な支援を必要とする生徒に対し、外部人材の活用や関連機関との連携に組織的に取り組む。 ・特別支援教育の手法を生かした学級経営や教科指導を実践する。	・教師の自己評価 ・保護者の評価 ・地域関係者の評価	80%	70	B	・外部機関や外部人材との積極的な連携や活用を図り、不登校や特別支援の充実を図ることができた。 ・全教科等の指導における紙書のユニバーサルデザイン化や教室環境整備に取り組む、生徒が安心・集中して授業に取り組めるに学級経営や教科指導の実践に努めた。	・外部人材による授業支援を引き続き継続するとともに、臨床心理士の更なる活用を推進する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を図り、生徒が居心地よく意欲をもって学習に取り組める環境の整備を推進する。	・不登校をなくすよう、都、紙に最大の支援をしてもらう必要あり。 ・集中できる仕組みが必要。 ・子供のこころをいかに悩んだ時期もありましたが、サポート教室を始め先生方の御協力があったありがたかった。子供の心に寄り添える学校であってほしいと思います。	3.0	
健康やかな体の育成	【中期】 体力の向上 【短期】 持久力の向上を図る	・体力向上月間を設定し、小学校と連携してランニングウォーキングイベントを実施する。 ・運動部活動の活性化を図る。	・新体力テスト ・生徒の自己評価 ・イベントへの参加率	80%	75	B	・11月に「ランニング・ウォーキング」を実施し、延べ150人以上の生徒が参加して体力向上に努めた。小学校との連携は感染症対策のため見送り、中学校だけで実施した。小学校との連携は感染症対策のため見送り、中学校だけで実施した。	・運動能力・運動習慣調査の結果から、感染症のこともあり運動習慣の定着に課題がみられた。運動習慣の定着の拡充について検討を進める。 ・生徒数の減少及び部活動に加入しない生徒の増加を踏まえて、選択と集中、外部との連携を見据えた運動部活動の充実を図る。	・引き続きランニング・ウォーキングを行うとよいと思う。よい取組だと思います。 ・良いと思う。 ・ランニングウォーキングの他にも何かあっても良いかなと思った。	3.0	
	【中期】 健康を自己管理できる生徒の育成 【短期】 健康意識の向上を図る	・感染症対策を行う新しい日常の中で、自分や他人の健康を守り、互いを思いやる生徒の育成を推進する。 ・栄養教諭による食育授業を実施する。	・教師の自己評価 ・保健委員会の調査 ・生徒の自己評価	80%	85	A	・月1回の保健便りの発行、保健委員会の取組及び宿泊行事等を通して、自他の健康を守り、互いを思いやる生徒の育成に努めた。 ・各学年において、栄養教諭による食育授業を年1回ずつ実施し、食と生活の関連と食の大切さについて学ばせることができた。	・保健便りの発行や保健委員会の取組は継続していく。 ・宿泊行事だけでなく普段から健康・安全に関する取組を推進する。 ・栄養教諭等を活用した食育授業を継続して実施していく。	・栄養教諭等を活用した食育授業は、七小連携で推進するとよい。 ・栄養学習は続けていただきたい。 ・生徒がマスクや感染対策を嫌がらずですてきで素晴らしいと思います。	4.0	
※学校裁量	【中期】 地域・保護者と連携した学校運営 【短期】 地域・保護者の教育力を活用する	・保護者による家庭学習の点検・確認の推進・実施を促す。 ・英語や漢字検定試験の監督、面接官に学校運営協議会委員・地域人材を活用した教育活動を充実させる。 ・学校と家庭の連携推進事業や地域未来塾等の地域の教育力を活用した生徒の学力向上を図る。	・地域関係者の評価 ・保護者の評価	80%	63	B	・家庭学習ノートの活用・取組状況は、生徒により差が見られた。 ・漢字検定、英語検定について学校運営協議会の人的支援を得ながらそれぞれ3年3回実施することができた。 ・学校と家庭の連携推進事業や地域未来塾に配置したり、地域未来塾による英語・数学の基礎学習講座を3年生対象に実施することで、基礎学力の向上を図ることができた。	・家庭学習の充実に資する効果的な取組について検討を行う。 ・各種検定は引き続き実施し、実施のための学校運営協議会との連携を行っていく。 ・学校と家庭の連携推進事業、地域未来塾事業については来年度も年度当初から活用を進めていく。	・学校での検定は続けていただきたい。運営協議会の支援はよい活動だと思う。	4.0	
	【中期】 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う 【短期】 道徳教育の充実を図る	・物事を多面的・多角的に捉えて考え議論する道徳教育の充実を推進する。 ・指導法の工夫による、道徳授業における生徒の心を耕し道徳性を高める指導の充実を図る。	・保護者の学校評価 ・生徒の自己評価 ・教師の自己評価	80%	80	A	・道徳のワークシートの工夫や授業の流れを工夫することで、生徒が道徳授業の流れを把握し、自らの考えを表述したり、他の意見を踏まえて考えを深めたりする授業の充実を図ることができた。 ・道徳科の教科書を使いながらも「本時のテーマ」を明示すること、教師が自己開示をしたり教材の工夫を行ったりすることで生徒の心を耕す授業を推進した。	・一人一台端末の活用による道徳授業の活性化について検討し、実践に取り組む。 ・読み教材等の活用方法及びワークシートの工夫・改善を引き続き行っていく。また、自分たちとの生活の関わりをもたせた指導の充実に取り組んでいく。	・健活動で保護者と共い癒やしの時間があるとよい。	3.0	
	【中期】 個に応じた指導の充実 【短期】 特別支援教育の理解と実践	・特別支援教室(サポート教室)の活用及び連携の充実を図り、個別指導計画に基づき個に応じた指導の充実を図る。 ・巡回指導員、専門員、心理士を活用した特別支援教育の充実を図る。	・生徒の自己評価 ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価 ・保護者の評価	80%	74	B	・特別支援教室の活用・連携を図り、通常学級内での指導・支援の在り方について検討し、個に応じた指導・支援の充実を図った。 ・巡回指導員、専門員、心理士を活用し、特別支援教室利用者以外の生徒についても支援が必要と考えられる生徒の対応の充実を図った。	・特別支援教室と通常学級での指導の連携の更なる充実を図り、個に応じた指導の推進を図る。 ・今年度は火曜日に限定されていた巡回心理士の来校日を様々な曜日に分散させ、生徒を多面的・多角的にみてもらう体制の充実を図る。	・先生によって気付く先生と気付かない先生がいっぱい、全てを委ねることは難しいと感じる面もあります。	4.0	
【達成度】＝【達成値】／【目標値】 【評価】 A：8割以上目標達成とみなし、新たな目標設定 B：8割未満5割以上8割を超えざるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し										平均値	3.5

【達成度】＝【達成値】／【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

平均値

3.5

武蔵村山市立第一中学校

【学校運営協議会・会長】小泉 亨

学校運営協議会（学校評価分）第1回：7月、第2回：10月、第3回：2月

【達成度】＝【達成値】／【目標値】
 【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し

平均值 | 3.3

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第三中学校

経営理念	① 生徒一人一人を大切に ② 生徒の食さ、可能性を伸ばす ③ 教師の持ち味を生かし、勝負する
------	--

【学校運営協議会・会長】	茅城 みや子
学校運営協議会（学校評価分）	第1回 4月21日（木） 第2回 7月14日（木） 第3回 12月8日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価		改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価		
				目標値 11月 達成値	最終評価 達成度 評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする)	意 見	評価点 (4点満点)
確かな 学力の 向上	【中期】生徒の基礎学力の定着と向上を図る	・「三中スタンダード」を徹底し、授業を展開する ・タブレット端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実を図る ・定期考査前の質問教室や地域未来塾、三中サマースクール等を活用し、補充的学習を実施する	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価 ・補充的学習の回数、参加者数	90 83	A A	・「授業が分かりやすい」と考えている生徒が2年生で80%以上、1・3年生で70%以上いる。 ・ICTの活用を意図した授業を教員一人一人が意識したこともあり、多くの生徒が授業を分かりやすいと感じており、また一人一台端末をもっと取り入れてほしいと考えている。 ・放課後の質問教室やサマースクールなどは生徒の学習力につながっている、生徒・保護者が感じている。	・「三中スタンダード」を教員がより意識した授業を実施し、また生徒や保護者には「使い」等と周知を図っていく。 ・ICTの活用については、来年度はタブレットの持ち帰りを可能とし、学力の向上と家庭学習の習慣化につながる、指導していく。 ・質問教室等はマンネリ化にならない内容の工夫・充実を図る。	・ICTを活用した授業改善に努めており、視覚的に分かりやすく、理解が深まる授業に取り組んでいる。 ・ICTには様々な利点があるが、使い方が一つ誤ると個人情報流出、トラブルの原因になるため注意が必要だと感じる。 ・定期考査前の質問教室等を適時行っており、基礎学力の向上が図られているものとする。	3.7
	【中期】家庭学習の習慣化と定着を図る	・「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる ・保護者会や学年便りなどで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価 ・家庭学習状況調査の結果	85 70	B B	・家庭学習の習慣については、1年生で70%以上、3年生で80%以上身に付けていると感じているが、2年生は約40%しか感じていない。 ・家庭学習の習慣が身に付いていないと考える保護者や学校運営協議会委員が多い。 ・家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、保護者に任せだけでなく、学校からの具体的な対策を求めている。	・今後も家庭学習の必要性は進路学習や進路などの時間を使いながら、生徒に必要か、大切かを呼び掛けている。 ・具体的な取組は呼び、保護者会やたよりなどで保護者に地道に家庭学習への取組の重要性を呼び掛けていく。	・1・2年生の家庭学習が定着していない。課題をしっかりとやってくる習慣を付けさせてほしい。 ・家庭学習は保護者の意識の啓発が必要。 ・家庭学習の重要性。「なぜやるのか」、いやいやするのではなく、学習することにより将来どんな効果があるかを生徒に知ってもらえることが大事だと感じます。	3.1
	【中期】読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る	・朝学活終了後、朝読書を行う。また、学校司書と連携し、学級図書室の配置や図書室活用を通して、本への興味・関心を高め、読書量を増やす ・社会科を中心にNIEを実施する	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価 ・本の貸し出し回数 ・NIE実施回数	90 58	B B	・朝読書への取組は、多くの生徒が意欲的に行っているが、疑問に感じている生徒もいる。 ・学校運営協議会委員の評価は高いが、保護者には朝読書の取組が十分に伝わっておらず、その活動の意義が十分理解されていない。 ・NIEへの取組には個人差が大きい。	・朝読書の有効性を周知したうえで、今後も朝読書を継続して行い、質を高める工夫をする。(記録を付けるとか) ・朝読書の取組は家庭にも伝える工夫が必要である。(図書便りだけでなく) ・NIEは教員個人の取組になっているので、校内で組織的に継続していくが、検討する必要がある。	・読書への意欲は、生徒たちの行動を見ていると十分にあると思います。 ・NIEでの活動が、生徒の新聞投稿の掲載実績が出ていて言語能力の向上ができています。 ・読書評価アンケートでは、ほとんどの生徒が朝読書に取り組んでいる。一方で、我が子が読書に取り組んでいるとは思えない保護者は少ない。	3.6
豊かな 心の育 成	【中期】いじめ撲滅への取組	・年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談を充実させ、いじめ防止の取組を行う ・SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う ・道徳の授業において、生命尊重や思いやりの心を育成する授業を展開する	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 98	A A	・年2回いじめのアンケートや担任を中心とする見守り等の取組の効果が出て、生徒・保護者とも安全・安心に学校生活を送ることができたと感じている。 ・SNSを通じたいじめなどの問題を、セーフティ教室等の授業で注意・喚起するなど、生徒の「いじめ防止」の意識を高めることができている。 ・不安や悩みを抱えている生徒の把握、迅速かつ適切な対応を行う体制の維持が必要である。	・今後もいじめアンケートを定期的に実施する。こまめに二者面談を行うなどして、いじめのサインを見逃さず教員間で情報を共有し組織的に迅速・的確に対応する。 ・教員の人格意識向上と「いじめの対応」、「体罰防止」の研修会を継続し実施し、教員の意識向上を図る。 ・学年会などで、ベテラン教員と若手教員で、生徒理解、生徒指導について話し合う時間を十分確保し、必要に応じて研修を行う。	・先生方や保護者の方がいじめの「兆し」に早く気付けるよう取り組んでもらいたい。 ・教師が授業中や休み時間の巡回を行うとともに、場合によっては声かけも行っているが、いじめ表に現れない面もあるため、引き続き生徒の様子の変化に気を配ってほしい。 ・いじめに関する情報収集の方法としてアンケートのみでは不十分であるものとする。例えば、匿名方式でのポスト設置等。	3.6
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	・特別支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図る ・特別支援教育の手法を活かした学級経営や教科指導を実践し、個に応じた指導を推進する	・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	85 80	A A	・SC、SSWを含めた教育相談委員会を週1回実施し、配慮が必要な生徒の情報を共有し、また対策を講じている。しかし、保護者や学校運営協議会委員にはその活動の様子が見えにくいようである。 ・スクールカウンセラーと生徒の信頼関係を築き、生徒理解に努める。 ・個別の支援策としての別室指導を丁寧に行っている。	・特別支援教室に対する保護者の理解が不十分なので、情報の発信を定期的に行う。 ・SCや別室指導の存在などが十分認識されていないので、活用や成果などをアピールしていく。 ・三者面談や必要に応じた家庭訪問を継続的に実施する。 ・不登校や別室指導の生徒の対応のための教員を配置し、改善を図る。	・保護者との連携を密にして、生徒本人が安心して通える環境を希望します。 ・全ての子によりよい環境での学習がさわれるようなサポートを今後も期待いたします。 ・これらのも個々に応じた教育指導を推進してほしい。 ・特別な支援を要する生徒については、保護者やスクールカウンセラー等の関係機関と連携を密にし、当該生徒にとって最善の対応を図ってほしい。	3.6
	【短期】あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	・いつでもしっかりとしたあいさつができる生徒を育成する ・来校者等に対してあいさつや礼儀をわきまえた行動がとれる生徒を育成する ・市の礼儀読本を活用し、礼儀やマナーを身に付けさせる	・生徒アンケート ・来校者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	85 99	A A	・生徒は挨拶の習慣が身に付いていると感じているが、一部の保護者や学校運営協議会委員は挨拶が十分と感じていない。 ・保護者や学校運営協議会委員によって、あいさつに対する評価が大きく異なる。 ・学校外や部活動によって、挨拶する姿勢に差がみられる。	・校舎外や部活動での挨拶の定着化が図れるよう、教員自らが積極的に挨拶することや生徒への周知を図る。 ・校長、教員、地域の方々による面接練習等を通して礼儀の指導をしていく。 ・道徳や朝礼、各学年集会等で挨拶、マナーの意義について生徒に考えさせる指導を継続して行う。	・元来よく挨拶を返してくれる子が多く見受けられます。 ・挨拶は社会人になってからも大事なことで、ぜひ、挨拶ができる生徒にしてもらいたい。 ・訪問者の減少のせいか、自ら進んで挨拶する生徒が増えていると感じる。 ・体育祭活動の昼下校における交通マナー（3列に広がり道路を歩く等）、学校以外での礼儀・マナーが非常に悪い。	3.4
健やかな 体の育 成	【中期】基礎体力の向上を図る	・体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリピックの実施（学校2020レガシー教育の推進） ・家庭での体力向上への取組を推進する	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 90	A A	・生徒は体力向上に積極的に取り組んでいると感じおり、また保護者も体力づくりが行われていることを周知している。 ・コロナの影響もあり、全体的に基礎体力が落ちている。 ・運動が苦手な生徒に対する働きかけが課題である。	・来年度は運動会の形式も個人種目を取り入れた形式に戻し、またミニ・オリピックも年3回実施し、生徒の体力向上を図る。 ・運動が苦手な生徒も取り組みやすい種目や競技なども検討し、全体的な体力の向上を図る。 ・体力向上の取組を地域や保護者に発信する。	・運動に意欲的に取り組んでいる生徒の割合が高くなってきています。 ・運動、体育競技の苦手な生徒も中・スポーツ、運動が楽しく、真実に取り組んでもらえる工夫や工夫する事が大事だと感じます。 ・基礎体力がついていない生徒が多いことは残念。	3.8
	【短期】食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	・給食時の放送を利用して、食材の紹介をする取組を行う ・「弁当の日」や「食育の日」を実施し、食育を推進する（学校2020レガシー教育の推進）	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	85 106	A A	・「弁当の日」で生徒は弁当づくりに積極的にになり、食育講演会を実施することで、生徒の食に対する意識と理解が深まった。 ・「食育の日」で食事に対するマナーを身に付けさせることで、生徒の意識が高まった。 ・保護者や地域の方々にも十分周知されており、その意義に対する評価も高い。	・次年度は食育に対する学習も行うことでより一層の理解を深めるようにする。 ・「食育の日」を設定し、三年間でフォーマルな食事に対するマナーを身に付けさせる。 ・「弁当の日」「食育の日」によって、どの程度効果が現れたのか、例えば数値化して、保護者等に伝える。	・弁当の日は子どもにとって良い経験だと感じる。改めて親への感謝の気持ちをもてると思う。 ・適切な食料を食卓に提供するのではなく体のバランスを考えどんな栄養を取り入れることが大事か学んでいける取組が必要だと感じます。 ・「弁当の日」や「食育の日」を設けても食育に直結するとは限らないものとする。	3.7
	【短期】小中一貫教育の推進	・三中校区合同研修会を年間2回開催し、2学期に研究授業と協議会を実施する ・「ふれあいフェスティバル」を実施し、生徒と児童の交流を図る ・キャリア教育交流、委員会連携、研究授業の参観	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 90	A A	・「ふれあいフェスティバル」や委員会交流は参加する生徒が一部であるが、交流の機会と生徒・保護者とも周知している。 ・コロナ禍で行動が制限される中で、十分な活動と評価されている。	・保護者へはお便りやツイッターなどで発信しているが、地域にどのように発信しているか、検討が必要である。 ・「ふれあいフェスティバル」の運営方法については、さらにより良い方法を検討していく。	・ツイッター等での伝達方法の活用を希望します。 ・武蔵村山では、部内でも先駆けての2校目の取組があり、多くの生徒たちの自主性を重んじている下級生・上級生へのいい刺激になっていると感じます。 ・「ふれあいフェスティバル」の運営方法については、さらにより良い方法を検討していく。	3.7
※ 学校 裁量	【中期】保護者・地域に学校の取組を発信し、開かれた学校を推進する	・地域人材を活用し、「ふれあいフェスティバル」や「働く人の話を聞く会」、「高校の先生の話を聞く会」等を実施し、小中連携や地域との交流を推進する ・学校公開週間の実施や学校HPを活用し、学校行事や取組を発信する。	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 103	A A	・学校公開やTwitter、各種便りなどで学校の様子がよく分かると思う保護者が多い。	・保護者へはお便りやツイッターなどで発信しているが、地域にどのように発信しているか、検討が必要である。 ・「ふれあいフェスティバル」の運営方法については、さらにより良い方法を検討していく。	・「三中だより」や学校のホームページで行事や取組がよく理解できる。 ・三中のツイッターでは、随時情報更新され、写真画像も多く掲載されているので、学校の様子がよく分かる。 ・保護者や一部地域の方々へ限定（毎回同じ方々等）されており、広い意味で地域に学校の取組が発信されているものと感じられない。	3.5
	【短期】基礎的・基本的事項を向上させ、発展的学習につなげる	・各種検定やコンクール等に自主的に取り組ませ、学習意欲の向上と個性の伸長を図る	・生徒アンケート ・地域関係者の評価 ・検定受験者数、コンクールの応募数	80 72	B B	・英検や数検などを受得した生徒は全体の40%程度にとどまっており、ポスターなどのコンクールへの出品も少ない。 ・運営委員は積極的に参加していると評価している。	・次年度もさらに資格取得やコンクールへの出品が増えるよう、情報提供及び参加を呼びかけていく。	・各活動がとても意欲的に取り組まれていると感じます。 ・3年において、漢検、英検、コンクールのチャレンジの割合が1、2年から上がっているように思う。 ・生徒一人一人が検定に挑戦したいと思える取組を学校、家庭でサポートすることが大事だと思います。	3.8

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】
【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し

平均値 3.6

令和４年度 学校自己、及び、学校関係者評価表

武蔵村山市立第五中学校

経営理念	(1) 主体的に学習・生活し、学力・体力の向上を目指す学校 (2) 自他の人権を尊重する精神を育てる学校 (3) 地域に根ざし、地域と共に生きる学校
------	--

【学校運営協議会・会長】 宮崎 保	
学校運営協議会（学校評価分）第1回	6月 2日（木）
第2回	11月 10日（木）
第3回	2月 16日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取目標)	学校関係者評価		
				10月 目標値	11月 目標値	最終評価				意 見	評価点 (4点満点)	
				達成値	達成値	達成度	評価					
確かな学力の向上	【中期】全生徒に対しての基礎学力の定着を図る。	地球未来塾事業や東京都立武蔵村山高等学校生徒の学習サポートを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に、補習授業や補充教室を実施する。	・補習授業・補充教室の回数（時間） ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		87	A	定期考査前に、担当教科の教員が補習教室を計画的に行うことができた（年間5回）。「地域未来塾」を計画的に活用し、夏季休業日及び6月から2月まで、3年生の数学と英語の学習を毎週行なった。夏季休業中には、武蔵村山高校の生徒を招き1年生を対象に学習会を開催できた。	来年度も引き続き、定期考査前の補習教室、「地域未来塾」、武蔵村山高校の生徒による学習サポートを実施し、基礎学力の定着を図る。地域未来塾の参加者が、時期が進むと不参加数が増えてしまっていた。年間を通して参加するよう、声掛けを続ける。	基礎学力の定着に関しては学校の取組は理解できるが、定着したかは個人差があるように思う。夏季休業中の学習サポーターは、武蔵村山高校の生徒の協力を得て、今年度は多くの高校生が参加してくれた。学校からの投げかけもあり、定着をはかるための働きかけは評価できる。	3.3	
	【中期】家庭学習時間を増やし、習慣化を図る。	「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。 保護者会や学年便りなどで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う。 各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。	・家庭学習に取り組んだ時間 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85		75	B	昨年度に続き、家庭との連携を深めるために、学習の手引きの改訂版（保護者の役割掲載）を配布し、協力をしていただいた。しかし、今年度も家庭学習の習慣化は十分とは言えない状況である。	次年度も年度当初に、学級活動等で担任から「学習の手引き」を使った指導を行い、習慣化を目指す。家庭学習ができる学習支援コンテンツを活用してもらうよう保護者会や面談等で家庭に協力を求めていく。	学校から生徒や保護者に対する家庭学習の呼びかけや啓発は見られるが、十分に浸透しているかは疑問。家庭学習の習慣がまだ身に付いていない生徒も多いのではないかと。継続して行ってもらいたい。	2.9	
	【中期】読書活動・朝学習の活性化を図る。	朝学習終了後、朝読書や朝学習、NIEを実施する。また、学校司書と連携し、学級図書の配置や図書室活用を通して、本への興味・関心を高め、読書量を増やす。さらに1人1台のタブレット端末を活用し、朝学習を行う。	・図書室の利用生徒数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85		76	B	今年度も学年ごと曜日を設定して朝読書を行った。年間五冊以上の読書を目指したが、4割程度の生徒しか達成ができず、十分に身に付いたとはいえない。図書室の活用は、昨年度の引き続き、感染症防止対策を行い開催することができた。	例年とは違い、貸し出し可能冊数を感染状況に合わせて変えるなど工夫をしながらの図書室活用を行った。来年度も図書室の利用や学級図書の活用の仕方を工夫して行っていく。	朝読書や朝学習を行うことで、授業に入る前の姿勢が整うので、これは良い方向だと思う。活字離れが叫ばれる昨今、図書室の活用や朝読書を通してしっかり活字に触れてほしい。タブレット端末は環境によるのかもしれないが、もっと活用してもよいのでは。	3.0	
	【中期】基礎的・基本的事項の向上を図る。	各種検定（英検・漢検・数検）に自主的に取り組ませ、学習意欲と基礎的・基本的事項の向上を図る。	・検定受験生徒の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85		71	B	英検、漢検、数検の受験を勧め、英検と漢検については、学校会場として、開催することができた。	次年度も漢字・英語・数学の各検定の日程を生徒へ周知し、受験を奨励し、いずれかの資格を取得させるよう努める。	各種検定を学校内で催し、チャレンジしやすい環境にあると思う。検定に向けての学習を基礎学力の向上や家庭学習の習慣付けに結び付けてほしい。	3.1	
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行い、生徒が主体的にいじめ防止の取組を行うよう推進する。SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。道徳の授業において生命尊重や思いやりを重点に指導する。また、道徳授業地区公開講座等保護者の参加を促し、家庭と連携した取組を行う。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		79	B	年3回のふれあい月間によるアンケートや教員と生徒の2者面談等を行い、いじめ防止の取組を行ってきた。また、今年度も2名のスクールカウンセラーを配置してもらい、生徒や保護者のカウンセリングも行うことができた。五中サミットでは、小中高が集まり、いじめ撲滅について討議させることができた。	SNS教室ではLINE社の方を講師に招いて情報モラル教育を行った。道徳授業地区公開講座では、教員・地域・保護者で家庭や地域でできる道徳教育についてグループディスカッションを行うことができた。五中サミットを継続し、校区と連携しいじめ撲滅に取り組ませたい。	コロナ禍で生徒を取り巻く環境や学校行事への取組もこれまでとは異なると思うので、生徒の細かな変化にも目を向け続けてほしい。SNSに関するトラブルは年々、低年齢化し増加しているようなので、家庭とも連携して取り組んでほしい。	3.1	
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	特別支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインを推進する。また、教育相談部会を中心に個に応じた指導を進める。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		81	A	毎週1回開催する教育相談部会にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも参加していただき、関連機関との迅速な連携を図る。特別支援コーディネーターや特別支援教室の指導教諭、巡回心理士を中心に不登校生徒や特別の支援が必要な生徒への指導を行うことができた。	次年度も、教育相談部会にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーに参加していただき、関連機関との迅速な連携を行う。特別支援コーディネーターや特別支援教室の指導教諭、巡回心理士を中心に不登校生徒や特別の支援が必要な生徒の支援体制を充実させる。	特別な支援を要する生徒は年々増えていると聞く。そんな中で五中に特別支援教室が開設され、保護者にも浸透しつつある。該当する生徒や保護者だけでなく、周囲の生徒への理解も進めてほしい。	2.9	
	【短期】地域活動・ボランティア活動を充実させる。	担当者の計画的なボランティア募集等の取組により、地域行事やボランティア活動への生徒の参加率を高めていく。また、小中連携の取組として生徒会を中心に、あいさつ運動やベントボール回収などを行う。	・参加した生徒の延べ人数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90		68	B	二小・八小・十小とのあいさつ運動とベントボールキャップ回収を行うことができた。生徒会役員と図書委員による、小学生への読み聞かせも行うことができた。	次年度も、校区の小学校と連携した取組と地域行事へのボランティア参加を生徒に促していく。	地域とのつながりは生徒の心のふるさどになるなど、生徒一人一人の人間としての役割を感じられる大切な事柄だと思う。徐々にコロナ禍でできなかったイベントが復活してきているので、来年度以降も積極的に参加してほしい。	3.2	
健やかな体の育成	【中期】学校2020レガシーの推進	オリンピック・パラリンピック教育で培った「学校2020レガシー」を推進する取組を行う。また、豊かな国際感覚を養うとともに、体験や交流を通して、障害者理解やボランティア活動を推進する。	・オリパラに関する授業の実施回数 ・教師自己評価 ・生徒アンケート	85		79	B	障害者理解を深めるために、ブラインドサッカー選手を招き、「見る・聞く・触れる」体験を中心としたに講習を行っていた。	来年度も、オリンピックやパラリンピックを講師に招き、国際理解教育や障害者理解教育、SDGsを推進していく。	様々な機会に生徒たちが触れ合えることはとても重要だと思う。オリンピック・パラリンピックが終わっても、そのような体験や交流が続けられるなら続けてほしい。	3.1	
	【短期】基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高める。	残食ゼロウィークに積極的に参加し、給食の残食率の結果分析に基づき、食育の取組を行う。 給食時の放送を利用して、食材の紹介や食育をする推進する取組を行う。	・給食残食率調査 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		80	A	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の取組（給食前の手洗いの徹底、給食係の手指消毒の徹底、班での給食を止め、個人での黙食等を実施）を継続した。「残食ゼロウィーク」として、いただきますの時間を早めるキャンペーンを行い、給食時間を確保することを行った。また、昼の放送で、食材の紹介等を行った。	年度当初の呼びかけと徹底で新型コロナウイルス感染防止の取組が根付いたため来年度も継続して行う。また、昼の放送を活用し給食について知らせしていく。来年度も、残食ゼロウィークを給食委員会を中心に取り組んでいく。	環境やゴミ問題など未来を生きる生徒たちに食育は必要だと思う。SDGsにもつながることなので、続けてほしい。給食に地域食材も多く使われているので生徒にはそのあたりも知ってほしい。	3.1	
開かれた学校	【中期】コミュニティ・スクールとして、学校への参画意識を高める。	コミュニティ・スクールとして、活動方針や活動内容を周知し、様々な取組（五中フェスティバル・プロから学ぶ会等）を推進する。	・学校運営協議会が関わる活動に参加した生徒・保護者の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		87	A	今年度も、職場体験が実施できなかったが、プロから学ぶ会にて職業講話を実施した。また、3年生に対し、面接官として模擬面接を実施していただいた。今年度の芝刈りや防犯パトロールもPTA役員や地域の方に参加していただき実施することができた。	3年生に対しての模擬面接は、緊張感をもたず意味でも継続していききたい。また、職業講話（プロから学ぶ会）は、次年度も継続していききたい。次年度もPTA・地域の方々の協力を得ながら、芝刈りや防犯パトロールを実施していきたい。	コミュニティ・スクールの活動が盛んで生徒もよくそれに応えている。五中フェスティバルやプロから学ぶ会はコロナ禍で制限が多い中、滞りなく開催できて良かった。これからもぜひ続けていきたいと思います。	3.8	
	【中期】保護者・地域の教育力を取り入れた教育活動の展開	地域行事へ積極的に参加し、地域の教育力で社会性を育む。SDGsを知り、国際理解教育を推進し、地域との交流を進める。	・外部講師の活用回数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90		80	A	今年度も2、3年生を対象に、五中フェスティバルを行うことができた。地域の方々の協力で、生徒が生き生きと活動できたことはとても大きかった。	次年度は、地域行事に参加できるよう声掛けを行っていく。また、SDGsや国際理解教育を推進できるよう計画を立て、準備をしていく。	地域の教育力も生徒にとって大切なものとなっていると思う。学校運営協議会の取組が充実することで地域の力になれると思う。国際理解教育はどのような取組があったかよく分からなかった。	3.4	
【達成度】＝【達成値】／【目標値】 【評価】 A：2割以上かつ目標達成と十分な改善が確認できる B：2割未満5割以上かつ2割を超えるような継続実施 C：5割未満かつ目標の達成が確認できない											平均値	3.2

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

令和5年度 武蔵村山市立学校 研究活動等一覧

校区	校区目標	学校名	研究主題等	研究指定・事業名			発表会 報告会
施設一体型 小中一貫校	【教育目標】 人にやさしく 自分に強く 英知を磨く 村山の生徒 【中期教育目標】 志をもち、主体的に 考え実践する 児童・生徒の育成	小中一貫校村山学園 H22年度 校庭芝生化 H23年度 コミュニティスクール	【村学研究主題】 GIGAスクール構想に基づく 個に応じた指導と基礎的・基 本的な学力の定着及び学力向 上	平成23年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	13	
				平成23年度～ 小中一貫教育研究指定校	市	13	
				平成29年度～ 学力向上担当教師加配事業	都	7	
				平成30年度～ 地域防災連携「村学レンジャー」	市	6	
				平成30年度～ 太陽光パネルを活用した環境教育推進校	市	6	
				令和5年度 教育課程実践検証協力校（中学部）	都	1	
施設隣接型 小中一貫校	【校訓】 「自主創造」 自主・自立 共生・貢献 健康・大志	小中一貫校大南学園 第七小学校 H23年度 校庭芝生化 H25年度 コミュニティスクール	【七小研究主題】 継続的な授業研究による教師 一人一人の授業力の向上 ～児童の課題に着目し、その 改善・克服に資する学習指導 の工夫を通して～	平成24年度～ 教育課題研究校「食育・学校園活用」	市	12	2月22日 研究発表 （特色）
				平成27年度～ 小中一貫教育研究指定校	市	9	
				令和2年度～ 学校マネジメント強化モデル事業	都	4	
				令和3年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	3	
				令和4・5年度 特色ある学校づくり推進校	市	2	
	【小中一貫校基準】 小学校 わけをそえて話することができる 児童 中学校 自分の考えをもち、理由をそえ て説明できる生徒	小中一貫校大南学園 第四中学校 H23年度 校庭芝生化 H25年度 コミュニティスクール	【四中研究主題】 不登校生徒の未然防止と支援	平成23年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	13	1月18日 研究発表 （特色）
				平成27年度～ 小中一貫教育研究指定校	市	9	
				平成27年度～ 部活動ハンドボール競技奨励校	市	9	
				平成30年度～ 学校マネジメント強化モデル事業	都	6	
				平成30年度～ 太陽光パネルを活用した環境教育推進校	市	6	
				令和2年度～ N I E 実践指定校	民	4	
				令和4・5年度 特色ある学校づくり推進校	市	2	
施設分離型 小中一貫教育 【一中校区】	【教育目標】 ○自ら学びに向かう児童・生徒 ○心豊かにやさしい児童・生徒 ○心身ともに健康な児童・生徒 ○あきらめずに頑張る児童・生徒	第一小学校 H23年度 校庭芝生化 H25年度 コミュニティスクール	【一小研究主題】 みんなで創る学校	令和元年度～ 小中一貫教育推進校（一中校区）	市	5	
				令和2年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	4	
		第九小学校 H24年度 校庭芝生化 H26年度 コミュニティスクール	【九小研究主題】 自ら課題を見付け、協働しながら学 習できる児童の育成（案） ～地域の材を生かした総合的な学 習の時間を通して～	平成28年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	8	
				令和元年度～ 小中一貫教育推進校（一中校区）	市	5	
				令和5・6年度 特色ある学校づくり推進校	市	1	
	【中学校区研究主題】 感じたことを大切にし、思いや 願いを実現する児童・生徒の育成	第一中学校 H23年度 校庭芝生化 H25年度 コミュニティスクール	【一中研究主題】 ICT機器を用いた授業と校務 の改善	平成25年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	11	
				平成27年度～ 海外派遣教師によるALL ENGLISH講座事業	市	9	
				平成30年度～ 太陽光パネルを活用した環境教育推進校	市	6	
				令和元年度～ 小中一貫教育推進校（一中校区）	市	5	
施設分離型 小中一貫教育 【三中校区】	【教育目標】 自己の夢の実現に向けて、地域 を愛し、正しい行動力を持ち、思 いやりと協力精神のある主体的な 実践を積み上げた児童・生徒の育 成	第三小学校 H23年度 校庭芝生化 H26年度 コミュニティスクール	【三小研究主題】 主体的に学習に取り組み、思 考を深める児童の育成 ～ICT 機器の有効活用～	平成24年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	12	
				平成30年度～ 小中一貫教育推進校（三中校区）	市	6	
				令和2年度～ 文化プログラム・学校連携事業※申請中	都	4	
				令和5年度 ゼロカーボンシティチャレンジ校	市	1	
		雷塚小学校 H24年度 校庭芝生化 H25年度 コミュニティスクール	【雷小研究主題】 自分と共に人を大切にできる 児童の育成	平成25年度～ 太陽光パネルを活用した環境教育推進校	市	11	12月15日 研究発表 （人権）
				平成28年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	8	
				平成30年度～ 小中一貫教育推進校（三中校区）	市	6	
				令和2年度～ 学校マネジメント強化モデル事業	都	4	
				令和4・5年度 東京都人権尊重教育推進校	都	2	
				令和5年度 ゼロカーボンシティチャレンジ校	市	1	
		第三中学校 H23年度 校庭芝生化 H25年度 コミュニティスクール	【三中研究主題】 確かな学力を育成するための ICT機器の活用の在り方 ～一人一台端末を活用した学 習指導の工夫～	平成28年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	8	
				平成30年度～ 小中一貫教育推進校（三中校区）	市	6	
				平成30年度～ 太陽光パネルを活用した環境教育推進校	市	6	
				令和5年度 ゼロカーボンシティチャレンジ校	市	1	
施設分離型 小中一貫教育 【五中校区】	【教育目標】 確かな学力と豊かな心を育み、 自信と誇りをもって21世紀を逞 しく生き抜く子供の育成	第二小学校 H24年度 校庭芝生化 H26年度 コミュニティスクール	【二小研究主題】 算数科「自分の考えをもち、 伝え合う児童の育成」	平成25年度～ 完全午前5時間制推進校	市	11	
				令和元年度～ 小中一貫教育推進校（五中校区）	市	5	
				令和2年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	4	
		第八小学校 H24年度 校庭芝生化 H24年度 コミュニティスクール	【八小研究主題】 （仮）算数の授業で考えるの が楽しいと思える児童の育成 ～児童が関連付ける指導を通 して～	平成26年度～ 「徳育科」推進モデル校	市	10	
				平成28年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	8	
				平成29年度～ 学校マネジメント強化モデル事業	都	7	
				平成30年度～ 教育課程特例校（徳育科）	国	6	
				令和元年度～ 小中一貫教育推進校（五中校区）	市	5	
				令和4・5年度 教育課程実践検証協力校	国	2	
				令和5・6年度 特色ある学校づくり推進校	市	1	
		第十小学校 H24年度 校庭芝生化 H26年度 コミュニティスクール	【十小研究主題】 豊かな人間関係を育む、安心 感のある学級づくり	平成22年度～ 日本の伝統・文化教育推進事業	市	14	
				令和元年度～ 小中一貫教育推進校（五中校区）	市	5	
				令和2年度～ 学校マネジメント強化モデル事業	都	4	
				令和3年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	3	
				令和3年度～ N I E 実践指定校	民	3	
				令和4年度 完全午前5時間制推進校	市	2	
		第五中学校 H23年度 校庭芝生化 H26年度 コミュニティスクール	【五中研究主題】 主体的・対話的で深い学びの ある授業の実現 ～タブレッ ト端末を活用して～	平成27年度～ 地域防災連携五中レスキュー隊	市	9	
				平成27年度～ 部活動ハンドボール競技奨励校	市	9	
				平成30年度～ 太陽光パネルを活用した環境教育推進校	市	6	
				令和元年度～ 小中一貫教育推進校（五中校区）	市	5	
				令和2年度～ 学校と家庭の連携推進校	都	4	
				令和4年度～ 文化プログラム・学校連携事業※申請中	都	2	
				令和5年度～ 学校マネジメント強化モデル事業	都	1	